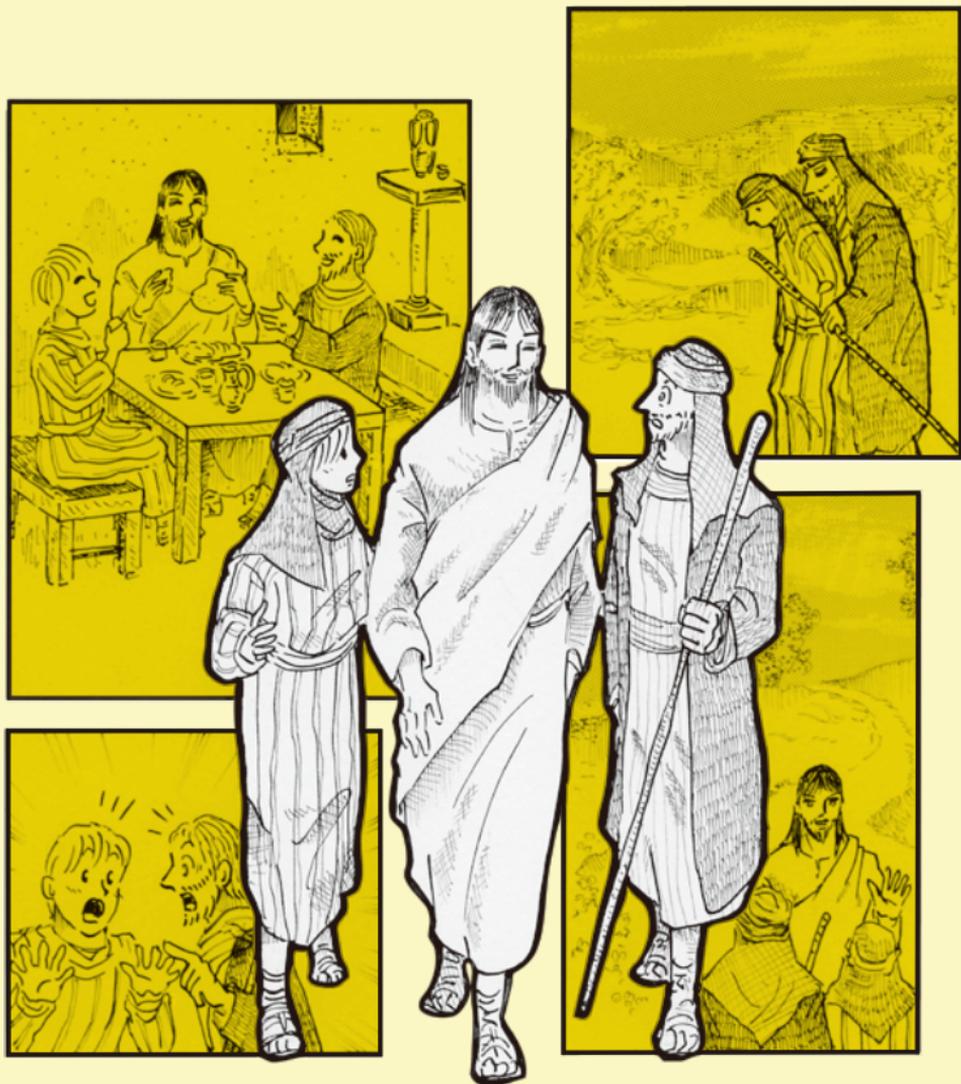


家庭礼拝のための

聖書日課



2014年4月~6月

No.90

ルーテル「聖書日課」を読む会

ホームページ・携帯メルマガ・テープ販売・点字販売のお知らせ

聖書日課には、いつもみなさんに利用して頂いている年四回の書籍での配布の他に、ホームページや携帯メルマガでの利用が可能です。

- ・ホームページは<http://seishonikka.org/>にアクセスしてご利用ください。
- ・携帯メルマガは、先のホームページの中央に中段に「携帯de聖書日課」とあるところに、ご自分のメールアドレス（携帯メール）を登録してください。朝の七時に毎朝、日課の言葉が届きます。（登録後、いくつかの公告メールが入るようになりますが公告メールの登録削除を行えば届かなくなります）。

また聖書日課には、テープ販売、点字販売もございます。また、今後CDによる販売も予定しております。ご希望の方は事務局まで遠慮なくお問い合わせください。

(question@seishonikka.org)

今号には以下の案内がございます。

- ・ヘブライ人への手紙 緒論
- ・江藤直純代表 退任のごあいさつ
- ・須田博之委員 代表就任のごあいさつ

家庭礼拝のための

聖書日課

2014年4月～6月

No. 90

ルーテル「聖書日課」を読む会

表紙絵 復活後、エマオへ旅する弟子たちに現れたイエス様

ルカによる福音書24章より

4月1日（火）

救いの完成へのまなざし

マタイ二六章二六〜三〇（二九） 讃二〇五 教会二五三

日曜日の礼拝の中で、小さなパンの一かけを食べ一口にも満たないぶどう酒を飲む聖餐せいさんが行なわれます。ルカによる福音書二二章一九節には「……わたしの記念としてこのように行いなさい」と聖餐がイエス様の命令によって行われるようになったことが語られています。この聖餐はイエス様が、弟子たちと行なった最後の食事の中で最初に分け与えられました。

この夕食後、イエス様は捕とらえられ、翌日には十字架につけられて殺されてしまいます。しかし、これですべてが終わったわけではありません。イエス様は死から復活され天に昇られます。今、イエス様は父なる神の右に座しておられます。そして、このことも、また最終的なことではありません。将来、イエス様はもう一度この世に来られます。それからこの世は終わり、父なる神様が支配する神の国が完成いたします。

その時、完成した父なる神の国で、イエス様と共に新たに、ぶどう酒を飲む日が来ます。これが弟子たちに与えた最初の聖餐のときに、イエス様が望み見ていたことを覚えましょう。

● 祈り 救いの完成の日を望みつつ歩ませてください。羽村教会（日福・東京）

4月2日（水）

先回りして迎えてくださるお方

マタイ二六章三一、三五（三二） 讃二七一 教会三〇六

学校などで学ぶ日本の歴史に「キリシタンの迫害」はくがいがあります。その時代の統治者は、キリスト教信者であるか、そうでないかを見分けるための一つの手段として「踏み絵」を用いました。そして、キリスト教信者と分かりますと信仰を捨てるように迫るわけですが、当時、信仰を捨てることを「ころぶ」と表現しました。

最後の晩餐ばんさんは木曜日の夕食です。その数時間後にイエス様は捕えられ、それにもない弟子たちはイエス様に従うことをやめるようになることを予告しています。このことをイエス様は《・・・あなたがたは皆わたしにつまずく》と言われます。つまずいてころんでしまう、つまり弟子たち皆が信仰を捨てる事が起こり、散らされてしまうというのです。

それでも、復活されたイエス様は、先回りしてガリラヤで弟子たちを迎えてくださいます。《・・・わたしは決してつまずきません》という私たちの決意ではなくて、先回りして迎えてくださるイエス様の恵みこそが、私たちの信仰を支えてくださっていることに感謝しましょう。

●祈り 恵みによりイエス様の内うちにうちいることを感謝いたします。八王子教会（日福・東京）

信仰の戦い

マタイ二六章三六〜四六(三八〜三九) 讃一三六 教会八一

私の知っている信仰者は、ある時期に、悲しみのあまり気が狂いそうになるという絶望の淵ぶちを通り過ぎて生きて来ました。その悲しみの中を歩んだ、この人は当初、「どうしてこのようになるのか、このようなことは私の願いではありません」と激しく抵抗したそうです。

今日の御言葉は、はつきりと悲しみもだえるイエス様のお姿を語っています。ともすれば、私たちは「奇跡を起こす力をお持ちのお方にこのようなお姿はふさわしくない。あるいは、神の子だから、いともたやすく父なる神様に従うことができたはずだ」と考えるかも知れません。しかし、そうではなく、イエス様は激しく抵抗しています。

さらに続けてイエス様は祈ります。「この杯」、つまり十字架の死を取り除けてくださいと。死の恐怖を味わっておられると共に信仰の戦いをしておられます。そして、すぐに《しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに》と告白して父なる神様のご計画に信頼します。ここにまことの信仰者の姿があり、信仰者としてのイエス様の勝利の姿を見ることができます。

● 祈り 神様の御心を願うことができますように。船橋教会(日ル・千葉)

4月4日（金）

裏切る者をも友と呼ぶ

マタイ二六章四七〜五六（五〇） 讃一三九 教会六四

ユダが、どのような理由でイエス様を裏切るようになってしまったかは分かりませんが、ユダが近づいて来て、《先生、こんばんは》と言い、接吻の合図を送ってイエス様を捕らえようとしています。それに対してイエス様は《しようとしていることをするがよい》と言われて、ユダと剣と棒を持った群集に丸腰まるこしでご自分の身を差し出しています。

この言葉に《主の道を整え、その道をまっすぐにせよ》という預言者イザヤの言葉を思い浮かべます。この御言葉は「あなたがイエス様のところに行けるように、道をまっすぐにせよ」ということを言っているではありません。この道はイエス様の方から旅をして、私たちのもとに来てくださる道です。私たちがどこにいても、そこに来て助けてくださる道です。

イエス様は、ユダに対して「友よ」と呼びかけてユダが裏切りの行動をしているときにも、心を開いて、赦しを与えようとされています。私たちが信仰生活の中で、罪を犯し歩んでいるときにも赦しを与えようと悔い改める日を待っていてくださいます。

● 祈り 悔い改める日を待ってくださいます。感謝します。松阪教会（近畿・三重）

信仰生活の転機

マタイ二六章六九〜七五(七五) 讃五一七 教会二九四

私が子供のころ「鶏が鳴く」ことは、夜が明けて朝が来て、人々が目を覚ますことの意味に使われていたように思います。ペトロの信仰生活はこの日をさかいに大きく目が覚めて、新たな段階へと成長していったのではないのでしょうか。

ペトロは、以前、すでにイエス様に従っていましたときに、《あなたはメシア、生ける神の子です》という信仰告白をしています。彼にとつて、この信仰告白は自分の決意であり、自分の力で努力して守っていくものではなかったでしょうか。その結果が今回の《そんな人は知らない》という言葉に現れているように思います。

その後、復活のイエス様と出会ったペトロは、十字架の死と復活による罪の赦しの恵みに驚きと感謝をあらわし、その恵みの中に自分が置かれていることを喜びつつ生きています。どんな時にもイエス様の恵みの中にあることを感謝しています。自分の弱さ、自分の罪深さも御手の中にあることと信じています。彼は、あの日をさかいに、死をも恐れずに生きるようになりました。

● 祈り イエス様の御手の中に生きることを見せてください。
じのみやみなみ 西宮南教会 (西日本・兵庫)

復活ということ

讃一〇〇 教会九七

エゼキエル三三章一〇〜一六　ローマ五章一〜五　ヨハネ二一章一七〜五三

家族の者が死ぬことほど悲しいことはないように思います。死んで横たわっている人を見えますと、何とか目を覚ましてほしいと願います。しかし今、そのことも叶わ^{かな}ない、なぜならラザロの場合は、すでに葬式も終わり、体は墓に納め^{おさ}られて4日もたっています。いくら病気の人たちに奇跡を起こして癒したイエス様が到着したと聞いても、もうすべてが終わったあとのこと、せめて来ていただけるなら、生きている間に来てほしかったという思いです。

イエス様から《あなたの兄弟は復活する》との言葉を聞いたマルタは、終わり日の復活のことに思いをめぐらします。当時のユダヤ教の多くの人たちは、終わりの日^{ぎじん}に義人が復活することを教えています。

初代のキリスト教会で、とても大きな働きをしたパウロという有名な人がいますが、この人はもともとユダヤ教の中でも、終わりの日に義人が復活することを信じるファリサイ派に属して活動していました。さらに、この人は当初キリスト者を捕まえて迫害していたのですが、ある日、

復活のイエス様と出会って劇的にキリスト者となりました。やがて、イエス様を伝える者として活躍いたします。イエス様の復活に生きた彼が、ガラテヤの信徒への手紙二章二〇節で《生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです・・・》と語っています。

今日の御言葉でイエス様はこう言われています。《わたしは復活であり、

命である。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことがない。このことを信じるか》。この御言葉が語るところは、復活というのは、将来の終わりの日にこのようになるということではないということです。先ほど、ユダヤ教フアリサイ派からキリスト者になったパウロのことにふれましたが、「復活というのが将来の終わりの日の」ことであるなら彼はユダヤ教のままでもよかったです。しかし、そうではなくてイエス様が復活であり命です。イエス様を信じる者は、すでにイエス様の復活の命に生かされています。

●祈り 復活のイエス様が私の内におられることを感謝します。フェローシップ日本人教会（デイ・在米）



イエス様の恵みの中で

マタイ二七章一〜一〇(五) 讃三二二 教会三七一

《殺してはならない》。これは出エジプト記二〇章一三節の御言葉です。神様は人の生命を取り(殺人)、また自分自身の生命をすてること(自殺)を禁じておられます。それでもユダはイエス様を裏切ったことを後悔して自殺をいたしました。

4月7日(月)

一方、ペトロは《そんな人は知らない》と断言してイエス様との関係を三度も否定しています。このことはイエス様を裏切ったということではユダのしたことと本質では同じではないでしょうか。ペトロはその後、激しく泣いて後悔していますが自殺はしませんでした。そればかりか復活したイエス様に罪を赦され、使徒として立てられて教会の基礎を造る働きをしています。

この二人の弟子の結末の違いはどこから来ているのでしょうか。ユダは自分の罪の結果を自分で責任を取ろうといたしました。その結果、罪の重さに押しつぶされてしまいました。ペトロは泣きました。イエス様の《鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないというだろう》という言葉聞いていたのを思い出したからです。ペトロはイエス様の恵みに生かされ続けました。

●祈り イエス様の罪の赦しの中で生かされますように。都南教会となん(日福・東京)

真の権威者

マタイ二七章二一〜二四(一一) 讃八五 教会三三二

四二年の間、合計一二七話が放映されたTV水戸黄門は、ちりめん問屋の隠居いんきよに身を隠した主人公が毎回、クライマックスで正体を現し、悪人を裁く物語です。このドラマの面白さの一つは権威ある者が身分を隠していること、また、悪人たちがその正体を知らないことです。

ローマの総督そうとくピラトは、イエス様が神の子であり真の権威ある者であることを知らずに裁判をしています。彼の頭の中はユダヤの国を治めることしかありません。そのために《お前はユダヤ人の王なのか》と問いました。王とは政治的、軍事的な支配者を意味しますから、「私は王である」と答えたなら、反抗する危険人物としてイエス様を有罪にして亡き者にするつもりです。

このピラトの質問に、イエス様は《それはあなたが言っていることです》と答えます。この言葉によってイエス様は神の子としての正体を現しています。なぜなら、ピラトの質問に対して否定も肯定もしないで「あなたはどう思うのか」と逆に質問し、裁く立場に身を置いています。ここにイエス様、本来の、真の権威者として、また裁く者としての姿を現しておられます。

●祈り 真の権威者のイエス様を宣べ伝えさせてください。田園調布教会(日福・東京)

自分中心な者

マタイ二七章一五〜二六(二一〜二二) 讃二三八 教会二九五

日曜日の礼拝に初めて来られた方にアンケートをとります。「どうしてこの教会を知りましたか」という質問に、「教会の前の看板を見て」という答えがとても多いのです。そのあと特別伝道集会の案内を何度郵送しても来てもらえず、また何の連絡もいただけません。

昨年、これらの人たちに、ささやかでもクリスマスを感じてほしいとの思いで、クリスマスカードを教会から贈りましたところ反響があり、何人もの人からお礼の言葉や近況が書かれた葉書やお手紙をいただき、私は、ほんとうのところ驚いてしまいましたし、嬉しくも思いました。

ピラトのもとのイエス様の裁判に人間の姿が浮き彫りにされています。群集はイエス様を迎えたときに、《ダビデの子にホサナ・・・》と前にも、後ろにも行き叫んで大喜びしています。ところが、数日のあとに《・・・十字架につけると叫び続けた》。結局のところ群集は、イエス様のことを、自分たちの期待や願いに答えられないならもう必要ないということです。ずいぶん、身勝手な群衆ですが、この群集の中に自分自身も含まれていることを思わずにおれません。

●祈り 主よ、憐れんでください。雪ヶ谷教会(日福・東京)

4月10日(木)

侮辱される

マタイ二七章二七〜三二(二九) 讃一三九 教会六九

人間とは、どこまで残酷さんぎやくになれるのでしょうか。すでに鞭打ちむちの刑を受けて、イエス様の背中
の皮膚は裂けて肉がとびだし、血がふきだし、痛みと苦痛に顔がゆがんでいる者を、兵士たちは
なお立たせて、今度は侮辱しています。

ところで、ある人は、次のように考えるかも知れません。「こんな惨めみじな、弱い人が、どうし
て救い主なのだろう・・・救い主と言うからには強くなければならない。そうであつてこそ人々
を救うことができるのではないか」と。

しかし、ただ黙って侮辱を受けておられるイエス様のお姿は弱さではありません。逆に、神様
の強い力によって、この侮辱を一身に引き受けることによって敵対する罪人を赦す恵みです。

鞭打ち刑のあとの激痛の中での侮辱のかずかず、ただ沈黙をして忍耐しておられるイエス様は
何を思われていたのでしょうか。それが十字架の上での第一声「・・・父よ、彼らをお赦しください。
自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ二三章三四)ではなかったでしょうか。

●祈り 侮辱の中、罪を引き受けてくださることを感謝します。大岡山教会(日福・東京)

重荷を味わうなかで

マタイ二七章三二―四四(三二) 讃一三九 教会六四

イエスさまの「十字架への道行き」の途中で思わぬことが起こりました。《シモンという名前のキレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に担がせた》^{かつ}というのです。

シモンという人は、マルコ福音書一五章にはアレクサンドロとルフォスの父と書かれています。ルフォスとその母はローマ書一六章にも記されて^{しよ}いますから、このシモンという人も、またその家族も、おそらくのちにキリスト者となったと考えられます。

シモンは兵士たちによって、強^しいてイエスさまの十字架を担がされました。無理矢理に主の十字架を受け取らされたのです。しかしこれも神さまのご計画の一つでした。シモンはこんなかたちで、十字架の重荷を担^{にな}わせていただくなかで、イエスさまと出会うことができました。主は言われました。《わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい》(マタイ一六章二四)。シモンは神さまに強いられて、十字架の重荷を味わわせていただくなかで、十字架への道を歩まれる主イエスさまの恵みを知る者とされたのです。

●祈り 主よ。どうか与えられた重荷を味わわせてください。大船教会(日ル・神奈川)

4月12日(土)

詩編を祈り続けられる

マタイ二七章四五、五六(四六) 讃二六二 教会三八六

イエスさまは、ご自分の死が迫りつつある中で、《わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか》と、叫ばれました。これは詩編二二編のはじめの言葉です。主は十字架の上で、人々から嘲りあざけを受けられ、また父なる神さまからも見捨てられたのです。

しかしながらイエスさまは、父なる神さまへの信頼を最後まで失われませんでした。なぜなら詩編二二編は、《御顔を隠すことなく、助けを求める叫びを聞いてくださいます》など、主なる神さまへの信頼の言葉に満ちているからです。主は十字架の苦しみの極みきわの中で、なお私たちの背きの罪のために、ただひたすら執り成しの祈りを続けてくださいました。

パウロはガラテヤの人たちに《目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではつきり示されたではないか》と、励ましています。私たちにも向けられている言葉です。私たちは、《キリストと共に十字架につけられて》(ガラテヤ三章一九) いるのですから、いかなる困難の中においても、イエスさまは私たちと共にいて慰めと平安を与えてくださいます。

●祈り 主よ。あなたにのみ頼る者をどうか憐れんでください。美杉教会(近畿・三重)

柔和な方はろばに乗り

讀二二九 教会七七

ゼカリヤ九章九〜一〇　フィリピ二章六〜一一　マタイ二章一〜一一

「どうして、ろばと子ろばなの？」と思います。七節で《弟子たちは行つて、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを引いて来て》と書かれています。他の福音書では子ろばとか、ろばの子なのです。でもマタイ福音書では、子ろばと共にお母さんろばも一緒です。主のエルサレム入城、それはかつてゼカリヤが預言した救い主のお姿でした。《高ぶることなく、ろばに乗つて来る、雌ろばの子であるろばに乗つて》（ゼカリヤ九章九）。ここに雌ろばとろばが登場します。マタイは、旧約聖書に預言された救い主のお姿の通りだった、と証言しているのです。

イエスさまはどのような想いで、大勢の群衆の《タビデの子にホサナ》というかんせい歓声を聞かれたのでしょうか。主は都に着かれると、神殿の境内に入り商売人たちを追い出し、宮きよめをされます。その翌日には、実のないいちじくの木を枯らされます。にゆうじよう入城に続くこれらの記事にヒントが隠されています。イエスさまは人々の不信仰を悲しんでおられます。形ばかりの表面的な信仰、高



ぶつた傲慢な思い、実を裏らせない信仰生活をたいへん憂いておられるのです。

数日後には、群衆の《ホサナ》という声が《十字架につけろ》という叫びに変わることを、主はご存知です。それにもかかわらず、人々が自分の服や木の枝を道に敷き、《ダビデの子にホサナ・・・》と声をあげるままに、今は身をまかせておられるのです。イエスさまは大きな決意をもって都へと進まれます。神さまのみこころに従って。神さまの僕しもべとしての王の姿です。先ほどのゼカリヤの預言は続きます。《わたしはエフライムから戦車を、エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ、諸国の民に平和が告げられる》。

イエスさまは「まことの平和」をもたらず方として来られました。主なる神さまとの平和です。この世界をご支配なさっているのは神さまの愛です。そしてその愛の極きわみである十字架へと向われるのです。私たちの罪と死を取り除くため、和解のいけにえの子羊として・・・。ろばは「のろま」とあざけられつつも、辛抱強く人々のために働き続けます。ろばに乗ってエルサレムへと向かわれる、その柔和なイエスさまのお姿に、神さまの愛のみ心が象徴されているのです。

● 祈り 神さま。どうかおごり高ぶる心を砕いてください。伊丹教会いたみ（西日本・兵庫）

4月14日(月) 聖月曜日

愛の香りでいっぱい

ヨハネ二章一〜二(三) 讃三九一 教会三九九

過越祭の六日前、ベタニアでの出来事です。主はラザロらと共におられました。そのころイエスさまの居所が分かれば、届け出るように命令が出ていました。そんな緊迫した状況でのことです。マリアは高価なナルドの香油こうゆをイエスさまの足に塗り、自分の髪で主の御足をぬぐったのです。家じゅうに香りが満ち溢れました。愛の香りでいっぱいになったのです。主はマリアの献身を喜んで受け入れてくださいます。期せずして、それはイエスさまの葬りの準備となりました。

ところがイスカリオテのユダがとがめます。《なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施ほどこさなかつたのか》。彼がこう言ったのは、金入れの中身をごまかしていたからだ、と書かれています。主のみこころから遠いところで、人間的な判断に頼ったり、打算にとらわれたり、自らの行ないの業わざを誇るときには、それは主の恵みを無駄にすることにほかなりません。

主が共にいてくださるといふ恵みのうちに、生かされている私たちです。マリアのように、主が与えてくださったみ恵みのうちに主にお仕えし、生かされる者でありたいと願います。

●祈り 主のみ恵みのうちに生かされる者としてください。サンパウロの日系人伝道

4月15日（火）聖火曜日

地に落ちて死ななければ

ヨハネ二二章二〇～二六 a (二四) 讃一四二 教会七一

過越祭に何人かのギリシヤ人が来ていました。異邦人の求道者たちでしょう。まことに謙遜に、イエスさまにお会いしたいと、彼らはフィリポに申し出ます。そしてフィリポとアンデレが、イエスさまに執り成しをしました。主がこの願い出を聞かれて、彼らにお会いになったかどうかは書かれていませんが、よく知られているあのみことばを語ってくださいます。

《はつきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。・・・わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる》。

イエスさまが、私たちのために《一粒の麦》となってください、十字架の上で死んでくださいました。主の願いは全ての人をご自分のもとへと引き寄せることです。暗闇から光へと招いてくださるのです。主はご自分の死を通して、神さまの栄光を見ておられます。そして《わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる》という、確かな約束をしてくださるのです。

●祈り 主よ。どうかあなたの招きに従わせてください。大森教会（日福・東京）

4月16日（水）聖水曜日

弱い私たちを招かれる

マタイ二六章一四〜二五（二三） 讃二七一 教会三〇六

イエスさまは食事の席で突然、《あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている》と言われます。「裏切る」という言葉は、「引き渡す」という意味です。主はこれまで何度も《人の子は人々の手に引き渡される》と予告されました。この席にいる誰かが「わたしを引き渡すのだ」という主のお言葉を聞いて、弟子たちは非常に心を痛めました。《まさかわたしのことでは》という発言からもわかるように、自分が主を引き渡す者となるかもしれないと、一人ひとりが思ったのです。彼らは弱い存在でした。この何時間後には、三度もイエスさまのことを知らないと言ったペトロをはじめ、弟子たちは皆イエスさまを見捨てて逃げ出すことになります。

イエスさまは彼らの弱さを全てご存じでした。にもかかわらず、弟子たちを聖餐式せいさんしきの食卓に招いてくださるのです。中には、裏切り者となったユダも含まれています。やがて復活の主と出会う彼らは、主の十字架はこの私のためであったことを知らされます。悔い改めに導かれ、再び主と共に歩ませていただく者とされるのです。今日も主は弱い私たちを招いていてくださいます。

● 祈り 主よ。あなたと共に命の道を歩ませてください。かまた 蒲田教会（日福・東京）

4月17日（木）聖木曜日

愛し抜いてくださる

ヨハネ二二章一〜一七（一） 讃二三八 教会二九二

《世の罪を取り除く神の子羊》（ヨハネ一章二九）として、ご自身を十字架にささげられる時が迫ります。イエスさまは《世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれ》ます。「愛」という言葉が繰り返されます。それほどに、主は愛を貫いてくださるのです。愛を完成してくださいませ。それはいったい誰に対してでしょうか。

それは《世にいる弟子たち》です。ご自分の者たちを愛されるのです。イエス様はまったく驚くべき行動をとられます。主でありまた師であるイエスさまみずから、ご自分の者たちの足を洗ってくださいます。その中には、あのユダも含まれているのです。この後、弟子たちはみんなイエス様を見捨てて逃げ去りますが、主はそんな弟子たちを最後まで愛し抜かれるのです。

《世にいる弟子たち》の中には、私たちも数えられています。主は私たちの罪を、ご自身の痛みとしてくださいました。今この礼拝で主は私たちの足を洗ってくださいませ。仕えてくださいませ。まことに恐れ多いこと。そして、言い尽くせない感謝の思いが溢れてまいります。

●祈り 主ご自身が私たちに仕えてくださり感謝です。横浜教会（日福・神奈川）

4月18日（金）聖金曜日

愛の成就

ヨハネ一九章一七〜三〇（三〇） 讃一三六 教会八一

イエスさまは《自ら十字架を背負い》ゴルゴタの丘おもむに赴かれます。代つて十字架を担かつぐ人を登場させていません。ヨハネ福音書はあえて《自ら》とつけ加え、主ご自身が十字架を担いでくださったことを強調しているのです。洗礼者ヨハネが《見よ、世の罪を取り除く神の子羊》と言つたように、イエスさまのご生涯のすべてが、十字架を背負つての歩みでした。

十字架上で母マリアに、《婦人よ、御覧なさい。あなたの子です》と、続いて愛する弟子に、《見なさい。あなたの母です》と語られます。十字架のもとで、「神の家族」である教会が誕生しています。そして《成し遂げられた》と言われます。輝かしい勝利を収めてくださいました。主はかつて、《一粒の麦は、地に落ちて死ななければ・・・》と言われ、「一粒の麦」として死ぬことを予め知らあらかじされました。まさに弟子たちを愛して、この上なく愛し抜いていてくださるのです。主の十字架において、私たちへの愛を貫いてくださいました。言い尽くせない恵みを、いのちを私たちに与えてくださいました。

●祈り 私たちの思いをはるかに超えたみ恵みに感謝をささげます。藤が丘教会ふじおか（日福・神奈川）

沈黙の日

マタイ二七章五七〜六六(六六) 讚一四一 教会八三

聖金曜日の夕方です。イエスさまのご遺体はアリマタヤのヨセフによって、十字架からおろされ、新しいお墓に丁寧に葬られました。ヨセフはユダヤの最高法院の議員の一人でしたから、ピラトも彼の願いを聞き入れます。神さまはそんなヨセフを用いてくださいます。イエスさまに従っていた女性たちも残って、イエスさまの葬りの様子をじっと座って見とどけていました。

六二節以降はマタイだけが記しよしています。《準備の日の翌日》ですから安息日です。祭司長たちとファリサイ派の人々は、ピラトにその墓の嚴重な警護を願い出ます。安息日を守らないと主を責めていたのに、彼ら自ら律法を守っていないのです。ピラトからつき放された彼らは、墓石に封印し、自分たちの番兵を置きました。それほどに主のご復活をおそれていたのです。

しかし神さまのご計画は静かに進んでいます。墓の入り口の石も、封印も、番兵も、イエスさまを閉じ込めておくことはできませんでした。葬りが終わりではなくて、その向こう側に確かな希望の光があります。ここに私たちの恵みがあるのです。

●祈り 主の御恵みを深く静かに思い起こさせてください。戸塚教会（日ル・神奈川）

4月20日(日)復活祭

こんな喜びが他に・・・

使徒一〇章三九〜四三　コロサイ三章一〜四　マタイ二八章一〜一〇

讀一五四　教会九五

男性の弟子たちは皆、イエスさまを見捨てて逃げてしまいましたのに、イエスさまの死と埋葬を最後まで見届けていた二人の女性がいました。そのマグダラのマリアともう一人のマリアは、週の初めの日の明け方に、ご遺体が納められた墓に向かいます。すると、主の天使が近寄って墓の入口の大きな石をわきへ転がし、その石の上に座るのです。そして、確かに空っぽになった墓の中を指し示しながら、弟子たちにこう告げなさいと言います。《あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたよりも先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかる》。最後の夜、オリブ山への途中で、主が予告しておられた内容です。

伝言を聞いた彼女たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで弟子たちのもとへ戻ろうとします。しかしよみがえ甦りの主は彼女たちの先回りをされます。《おはよう》と声をかけられます。「おはよう」の原文を直訳すると、「あなたがたは、今喜びなさい」という日本語では伝わらない深い意味が感じられます。復



活のイエスキリストとの出会いは、この上ない大いなる喜びです。

そして主は「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる」と言われます。復活の主ご自身が「わたしの兄弟たち」と言ってくださいます。主が私たちを、「わたしの兄弟、わたしの姉妹」と呼んでくださるのです。主がこのように呼んでくださるので、私たちは主にある家族として、兄弟姉妹としての交わりに与かることができます。くじけそうな弱い私たちを再び立ち上がらせてくださるのです。

イエスキリストは十字架の上で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれました。主はお苦しみのなか詩編二三編を用いて祈っておられました。この詩編は絶望の言葉で始まり、主の恵みの御業に対する賛美で終わります。神さまの勝利をほめたたえているのです。この詩編には、「わたしは兄弟たちに御名を語り伝え・・・」というみことばもあります。罪と死を滅ぼしてくださった勝利の主が、私たちを兄弟姉妹と呼んでくださっているのです。何と幸いなことでしょうか。こんな喜びが他にあるでしょうか。

●祈り わたしの兄弟姉妹と呼んでくださり心から感謝をささげます。志摩教会（近畿・三重）

『ヘブライ人への手紙』 地上を旅する神の民へ

『ヘブライ人への手紙』は新約聖書の中にある二二の書簡の中でも異彩いさいを放っています。

本書は、誰によって、いつ頃どこで、誰に宛てて書かれたものなのか現在でもすべてが明らかになっていないわけではありません。しかし、その内容はパウロの手紙にも匹敵するほどの深い信仰の書としての輝きを放っています。その特徴は神の子キリストを大祭司だいさいしと捉え、仲保者ちゆうほしやキリストの贖罪しよくざい（罪の贖いあがな）の独自性が展開されている「大祭司キリスト論」にあります。キリストが贖いを完成し、天の聖所の大祭司となられた。この大祭司キリストを信じるものは誰でも神の御前に出ることができると。だから、キリスト者は地上を旅する神の民として、この真理をしつかりと受けとめ、信仰に堅く立ち、苦難にも負けることなく、最後まで望みと忍耐をもって前進しなければならぬことを迫害の危機の中にある、ローマのキリスト者たち、教会に説いています。

本書は表題に手紙とありますが、他の手紙のように冒頭に挨拶の言葉がありません。終わりにはありませんが、後で加えられたと考えるのが妥当だと思います。そうだとすると本書の性格が浮かび上がってきます。それは本書が、手紙というより、格調高いギリシャ語の論文風の文体で書

かれた勧告、或いは説教だという見方が一般的です。本書はギリシヤ語で書かれた七十人訳と呼ばれる旧約聖書からの引用が多く、その解釈を中心に重要な神学思想が展開されています。

内容は四つの部分からなっています。一部は「神の言葉への服従（一章一〜四章一三）」。二部は「偉大な大祭司キリスト（四章一四〜二〇章二二）」。三部は「信仰による忍耐によって（一〇章三二〜一三章一七）」。四部は「結語（一三章一八〜二五）」です。これらの内容が更に詳細に、そして、交互に教理と勧告の順で繰り返されています。この構成はパウロの手紙には見られないものです。しかし、本書はパウロのものだと三世紀以来言われてきました。それが揺らいだのは宗教改革の時代でした。ルターは本書をアポロの手によるものだとしました。（アポロについては使徒言行録一八章二四〜一九章五を参照してください）。そして、今日でも多くの学者たちがこのアポロ説を支持し、もしくはアポロ的な学識と信仰を持った人の著作と見えています。執筆の年代は八〇〜九〇年頃という見方が有力です。執筆の場所については意見が分かれています。エフェソの可能性がありますが、現在でも見解の一致には至っていません。

4月21日(月)

今も神さまは生きておられます

ヘブライ一章一〜四(二) 讃六六 教会四七四

その昔、神さまは預言者を通して多くのかたちで私たち人間に語られ、その後、御子を通して語られたことを私たちは聖書を通して知ることができます。けれども、神さまからの語りかけはそれだけなのでしょうか？聖書さえ読んでいれば神さまからのみ言から聴くことができるのでしょうか。違います。

今、目を閉じて体中で感じてみてください。神さまからの愛を感じませんか？「感じる」ことは一人一人違っているのです。風の音であったり、土の香り、日差しの温もりぬく。いろんなかたちで一人一人に神さまは語られています。今も昔もそして未来も。

なぜって神さまは全ての創造主だからです。今、私たちが感じて聴くことができる神さまからの愛のみ言、それは聖霊の力に導かれて感じたり聴いたりできます。イエスさまが生きていらした頃はいいなあって思われる方もおられるかもしれませんが。大丈夫です。今もイエスさまは聖霊として一人一人と共におられ語られています。

●祈り 今も生きて私にも働きかけてくださる神さまに感謝します。西須磨教会にしすま(西日本・兵庫)

救いは

へブライ一章五〜一四(一四) 讃三五四 教会三五六

「クリスマスって教会でもやるんですね」と言われて驚いたお話を、教会学校の先生が毎年のようにお話をしてくださったことを思い出します。幼い頃遊んだゲームに、誰が、どこで、何をした、ということをそれぞれの項目でバラバラに書いて、それを箱に入れてぐしゃぐしゃに混ぜてから、それぞれがくじ引きをして、それを読み上げると目的と人と場所がてんでバラバラで、とても面白かったものがあつたのを思い出します。

今お読みした聖書の個所も「天使とイエスさまは何が違うの」と言う質問に答えてくれているようです。イエスさまは何のためにいらしたの？人間一人一人の救いのために来たんだよ。初めに話しましたクリスマスが教会のお祝いであることを知らない人には意外かもしれません。天使も、イエスさまも、クリスマスも、人によつてはあやふやなままなのかもしれません。しかし今、イエスさまは、おとぎ話ではなく、私たちの救いのために来られた方であると確信できます。救いとはあなたは今も神さまに愛されており、決して一人ではないと言うことです。

●祈り 神さま、私を愛してくださりありがとうございます。ディコンリー事務局(兵庫)

4月23日(水)

神さまに信頼すれば大丈夫

ヘブライ二章一〜四(四) 讃三五四 教会四九

私たち一人一人の命は誰によって創造されているのでしょうか？

ぬいぐるみや人形はどうでしょうか？ぬいぐるみや人形は人間によって作られます。それらの作品の中に人間が入ることができるとはでしょうか。作られた器に人間の魂が入るのででしょうか。よく「魂が込められているような作品だ」と言われますが、本当に魂や命が入り込んだ作品はありません。人と人形は比べられません。それと同じように人間と神さまは比べられないのです。

だからイエスさまと天使は比べられません。なぜなら天使は神さまであるイエスさまの作品だからです。天使は忠実に神さまの業や愛を天からの使いとして私たち人間に教えようとしてくれます。でもその通りに少しできても完璧にできないのが人間です。「わかっているんだけどなあー」て言葉が聞えてきそうです。だからイエスさまからの救いが私たち一人一人には必要なのです。もっと嬉しいことに私たちがイエスさまを必要だと思いう前から、イエスさまが私たちを必要としてくださっているのです。

●祈り 神さま、あなたへの信頼は押し流されることはありません。日吉教会ニチキ(日福・神奈川)

4月24日(木)

ご自分のためではなく

ヘブライ二章五〜九(九) 讃二二二 教会四二四

「あなたのために命をかけるわ」。そのような台詞せりふをテレビや演劇の中で聞いたことがあるような気がします。自分が好きな人からこのような言葉を言われたら飛び上がってしまうほど嬉しかもしれません。

でもここに、あなたから振り向きもされず、全く気にも止められていないかもしれないのに、あなたのために命をかけ、あなたのために死んでくださった方がおられます。あなたは「そんなこと頼んでいないのに何で？」と言うかもしれません。でもあなたが生きるためです。あなたに必要だからです。私はイエスさまが死んでくださらなくても生きてるよ、と言われる方もおられるかもしれませんが。しかし、神さまから与えられている命を生きること。それが生きることです。神さまにあなたが必要なように、あなたにも神さまが必要です。あなたが今ここに存在しているのは神さまに愛されているからです。一人一人に与えられる「時」があるように一人一人にふさわしいかたちで神さまからの愛も無条件で今も注がれております。

●祈り もうすでに神さまが私を愛してくださっておられることに感謝します。横須賀教会よこすか(日福・神奈川)

4月25日（金）福音書記者マルコの日

今この時

マルコ一章一〜一五（一五） 讚九〇 教会三三三

「がん保険に入っていて良かったわ」という今までの私には信じられない言葉を今回の入院では何度も聞きました。私が入院していた部屋では入れ替わり立ち替わり乳がんの手術の方が入院されてました。「まさか自分が・・・」の言葉の次には必ずのように「がん保険に入っていて良かったわ」と続き、入られていなかった方は「保険に入っておけば」と言われてました。

確かに金銭面においてや精神面においてがん保険や一般的な保険は多少は助けになります。私たちは生きていく中にはたくさんさんの困難や悲しみに出会います。それはこの病気で良かった、あの病気で良かったという問題ではなく、その時その時がお一人お一人にとって乗り越えて行かなければいけない現実です。

でも安心してください。どんなことがあっても一人一人には神さまが共にいてくださるという保険があります。神さまからの保険は病気を選びません。限度額もありません。あるのはたった一つ、今あなたに与えられている一方的な神さまからの愛だけなのです。

●祈り 神さま、あなたからの一方的な愛にだけ信頼します。小田原教会（日福・神奈川）
おたわら

4月26日(土)

試練を受けられたからこそ

ヘブライ二章一〇〜一八(一五)

讃四六一

教会四七四

先日ある出会いが与えられました。私たちは生かされて在る今の一瞬一瞬に出会いが与えられています。誰に？それは神さまからです。

私が座る席も無く困っているときに「相席あいせきでよろしければこちらへどうぞ」と品の良いご婦人が私を呼びました。娘さんと二人でお孫さんのトランペットの演奏を聞かれるためにいらしたそうです。そのお孫さんは小児がんを患いわずら現在も放射線治療の後遺症のため片目の視力を失い髪の毛もあまりうまく生えていない状態らしいのですが、同じような苦しみや悲しみを持つ方々の心に寄り添いたいと医学部に入り医学生として今日は演奏されると言うことでした。私はぜひその医学生に話を聞いてほしいし実習でお世話になりたいと思いました。

でも医者になる人は皆病気を経験しなければいけない、という問題ではありません。でも人間と神さまは違います。イエスさまは私たち一人一人の苦しみも悲しみも背負われ全てをご存知です。だからこそ全てをお委ゆたねしても大丈夫なのです。

●祈り 神さまは全てをご存知です。私を愛してくださいありがとうございます。湯河原教会(日福・神奈川)

一人一人を用いられる

讃六六 教会一八一

使徒二章二三―三二 第一ペトロ一章二―九 ヨハネ二〇章一九―二三

《聖霊を受けなさい》と復活されたイエスさまは息を吹き入れて弟子たちに言われます。

私たち一人一人は神さまによって命の息を吹き入れて頂き、生きるものとなりました。復活されたイエスさまが弟子たち一人一人に聖霊を吹き入れられたように。

「息を吹き入れる」ということは一人一人に向き合わないとできません。「この息はありがたいものだから逃さないように吸い込みなさいよ」と神さまがたくさん造ったものに一遍に吹きかけたものではなく、一人一人の存在に丁寧に吹入れたのです。中には少しずつ吹入れないと壊れてしまいそうな存在も神さまが思いっきり吹き入れても大丈夫な存在もあつたかもしれません。しかし神さまはその時その時に一人一人に必要な息を吹き入れてくださいます。

さて、弟子たちはユダヤ人たちを恐れて自分たちのいる部屋中の鍵を閉めてなお、部屋の中に縮こまっています。そこへ復活されたイエスさまが弟子たちの真ん中へ立ち、自分が十字架で死んだ、あのイエスでこうして復活してお前たちの所へ帰ってきたのだよとも言われるように

手とわき腹をお見せになられます。聖書を読んでいる私たちには復活された主イエスが弟子たちの所へ行かれたのだなあとありますが、ユダヤ人たちが怖がって閉じこもっていた弟子たちにはきつと手やわき腹の傷の跡をイエスさまが見せてくださらなければ怖かったことでしょう。そのような弟子たちの戸惑いより、聖書にはイエスさまが弟子たち一人一人に与えられる平安と神さまが一人一人を必要とされていると記しるされています。

今、み言に聴き生かされている私たち一人一人もそうではないでしょうか。

何かや誰かへの恐怖や悲しみで心がいっぱい自分で閉じこもってしまったり、何かの価値観だけに凝り固かたまってしまふときもあるのではないのでしょうか。自分が自分自身をいやになることもあるかもしれません。でも復活のイエスさまである神さまは違います。弟子たちに自分が復活したイエスであるよと見せられたように一人一人がわかるように静かに「復活の神である私が共にいるからあなたはあなたでいいんだよ」と言われて用いてください。

●祈り 神さま、どうぞこの身をお用いください。よこはまみずみ 横浜泉教会（日ル・神奈川）



神の家

ヘブライ三章一、六(六) 讃Ⅱ一 教会二〇三

この世に生まれた日は、お一人お一人がお持ちであり、かけがえない命の誕生の日として覚えられています。今日は私の誕生日です。この日にみ言を取り次ぐ者として用いられることは今の私を通して働かれておられる神さまの愛に畏れおそに近い感謝の思いでいっぱいになります。

「生きてて良かった」って皆さんは何度思われたことがありますか。私は今もその思いでいっぱいです。しかし、自分が今の医学では治せない進行性の病にかかっていると聞いた時はさすがに今のようには思えず逆に「何で生まれて来たの？」と問い続ける日々の方が長かったような気がします。

でも神さまに必要とされない命はありません。なぜならお一人お一人が神さまを現す神の家だからです。皆さんはお名前をお持ちですか。私の名前は健康という意味だそうです。未熟児で生まれた私が健康に育つようにと両親がつけました。私の病を知った友人が「皮肉な名前だね」と言われましたが、私は「心が健康だよ」って笑顔で言えました。神さまが必要とされてるから。

● 祈り 神さま、命をありがとう。すずか 鈴鹿教会(近畿・三重)

4月29日(火)

あなたは神様に信じられています　　ヘブライ三章七、一九(一九)　讚八七A　教会三三二

今私たちが読んでいる聖書は遠い遠い昔の物語でしょうか。今あなたに語られている神さまからのみ言であるのだと聴いてみてください。

モーセは大昔の人。四十年も荒野を彷徨さまよったのは外国の昔の人。信仰は？神さまと人間の関係は？それは今も昔も変わらないのです。人間がついつい神さまの恵みや慈しみを忘れ、感謝するどころか不平や不満を言ったり、目新しい何かに魅ひかれて神さまを忘れてしまう。それも昔と変わらない。それでも神さまは人間一人一人がご自分に立ち帰ることを信じて待たれておられる。

「神さまって人が良いねえ」って笑えますか？いやいや神さまは人じゃないから、そういう心配はありません。

あなたは信じられています。神さまはあなたが神さまの元へと立ち帰ることを待っておられます。「早く早く」と急かすことなくあなたのペースで今というあなた自身の「時」に神さまの元へ帰ることを。

●祈り　繰り返し背く私でもあなたへ立ち帰らせてください。きたすぞらんだい　北鈴蘭台教会(西日本・兵庫)

4月30日(水)

神さまはあなたを愛している　へブライ四章一〜二三(二三)　讚一四八　教会二六〇

幼い頃に読んだ童話に「裸の王様」という物語がありました。大学生のときに習った心理学か何かの科目の授業で「自分は知らないけど他の人は知っている自分」がいるということ聞いた覚えがあります。幼い頃に読んだ童話「裸の王様」も大学の授業で聞いた話もどこか似ているような気がします。私たちは自分で他人には知られたくないことや無意識に心の奥底に隠してしまっている記憶もあるのかもしれませんが。痛い時や悲しい時でも涙を我慢したり笑って見せたりして周りの人や親に心配かけないようにすることもできます。

意識的であつても無意識的なものであつたとしても私たちがうまく隠したと思つてることさえも全てを神さまはご存知です。それでもあなたは神さまに「あなたはかけがえのない大切な存在だ」と言われ愛されています。だから自分の知らない自分であつても知らないうちに人から笑われているかもしれない自分も、みんなまるごと神さまは愛しておられます。そのままのあなたを。

●祈り　自分自身が愛せない時あなたの愛を思い起こせますように。ひがしなるお東鳴尾教会(デイ・兵庫)

5月1日(木)使徒フィリポとヤコブの日

わたしが道であると言われる主　ヨハネ二四章一〜一四(六)　讚二九八　教会三三七

「分け登る麓ふもとの道は多けれど　同じ高嶺たかねの月を見るかな」。一休禪師の作と伝えられる道歌どうかです。宗教の入り口はいろいろ違っていても、最終的に到達するところは同じであるということをお説いています。最近登っている、大阪の金剛山こんごうざんも、登山道は百通り以上あると言われます。「一つの真理に向かつて仏教も神道もキリスト教もみんな同じところを求めているのです」と言われれば、受け入れやすいのが日本人ではないでしょうか。

しかし今日の聖書《わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない》とのキリストの言葉は、そうではないことを明言しておられます。

クリスチャンになる時の一つのつまづきでした。キリスト教会はなんと非寛容な宗教かと思いましたが。でも真理に関しては譲れない事があるという恵みを、最近特に強く覚えます。

その他の事は、周りの人にへりくだって合わせます。しかし、この事に関しては、みことばに立つと告白するのがキリスト者ではないでしょうか。真理は一つなのですから。

●祈り　この救いの道をへりくだって伝えさせてください。甲府教会(日福・山梨)

私の痛みをわかつてくださる主　ヘブライ四章一四、五章一〇（二五）　讚二、三、六　教会八一

病氣の方のお見舞いに元気な人が行っても何の慰めにも励ましにもならない、と言われます。

「私の苦しきは、この元気な人にはわからない」と心を閉ざすことがあるからです。

旧約聖書の時代、大祭司だいさいしを通してしか、人々は神様の前に出る事が出来ませんでした。その大祭司が、私の事を少しも理解してくれない、私の試練とは程遠い所を歩んでいる人だったらどうでしょう。生まれつき祭司階級で育った人には、下々の苦しみはわからないという事もありそうです。しかし、真の大祭司である主イエスは、私たちの弱さに同情してくださるお方です。

イエス様は罪は犯されませんでした。私たちが以上の試練を体験されました。飢える事も、人に裏切られる事も体験されました。賞賛を浴びて傲慢になりそうな誘惑にも遭われました。侮辱の中で十字架の死を引き受けられました。まさに究極の体験者です。この方前に入る者は「この方は私の苦しみをわかってくれない」とは言えません。苦しみを理解し、私の弱さに同情してくださいるのですから。この方前には安心して出て行けるのではないのでしょうか。

●祈り　私の弱さにさえ同情してくださる主に感謝いたします。飯田教会（日福・長野）

5月3日(土)

成熟したキリスト者を目指して

へブライ五章二〜六章二(六章二) 讚二八〇 教会三七

剣道では古くから三年早く剣道を始めるより、三年かかっても正しい師を探し求めよと言われます。正しい師につくといい事は出発点です。正しい師につかない剣道は自分勝手に気ままな方向に行ってしまうと言われます。まずは正しい師を真似る事から修行は始まるのです。

聖書は、私たちの信仰生活も約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となつてほしいと語っています。自分勝手な気ままなもの、怠け者とならないためです。

具体的な信仰生活の歩みを信仰の先輩たちから学びましょう。その中でやがて私たちは一人前のクリスチャンとして育っていくのです。その時大切な事は、正しい師につく事です。正しい師とはイエス様の事です。聖書を通して私たちはイエス様の事を知り、学び、その行いにまねていく事ができます。失敗しても大丈夫です。最初からうまく行くはずありません。キリストに見倣うには、信仰と忍耐によって、とも書かれています。とにかくまねる。見倣う事は信仰生活の第一歩目です。それによってたくさんの恵みを受けることとなります。

●祈り まずは見倣う事から始めさせてください。松本教会(日福・長野)

見ずに信じる幸い

讃二四三 教会二九五

使徒二章三六、四七 第一ペテロ一章一七、二二 ヨハネ二〇章二四、二九

私の愛唱歌 讚美歌二四三番に、《うたがいまどうトマスにも・・・》と言う歌詞があります。

この曲の二番には、《三たびわが主を いなみたる よわきペテロを・・・》ともあります。私はペテロのような者だという事をよく思いますが、うたがいまどうトマスにも親近感があります。エンジニアであった私は、科学万能主義、この世は計算でなんでもできると思っていましたから、自分で見ていない事は信じられないというトマスはまさに私の姿と思いました。

復活のイエス様を見た弟子たちが興奮して話し合っていた時の事です。イエス様の十字架の死に、力落としていた弟子たち。そこにイエス様は来てくださいました。彼らは復活の主に出会い、大きな励ましを受け、喜びます。ところが、どうしたわけかトマスはその場にいなかった。弟子たちの喜びとトマスの心には温度差がありました。私たちもそんな経験をしないでしょうか。みんなが体験している事を自分はしていない。そんな疎外感もあり、トマスは私は見なければ信じないと言ったと思うのです。トマスの心の中は寂しかったと思います。

仲間たちが信じている復活の主を信じられない自分がいました。自分の信じている体験、知識、それが復活のイエス様を認めないのです。トマスには二つの道がありました。仲間たちから離れてイエス様を信じないで歩む人生。そして、うたがいまどいながらも、弟子たちの中にとどまる道です。弟子たちは、そつとトマスと共に、一週間過ごしてくれました。トマスもとどまりました。そこに、イエス様は現れてくださったのです。まるでトマスだけのために来られたようです。

私たちも、信仰を持っていたと思うのに、わからなくなったり、教会でいても疎外感を覚えたりする時がないでしょうか。それでもとどまり続ける中で、説教がまるで自分のためだけに語られているような体験をします。

トマスを愛し、トマスに優しく語られたイエス様は私たちにも見ずに信じる者となりなさいと声をかけてくださいます。その喜びは何にも代えられない喜びです。

●祈り うたがいまどう私にも来てくださる主に感謝します。ながの長野教会（日福・長野）



5月5日（月）

希望の錨いかりが投げ込まれています

ヘブライ六章二三、二〇（二九） 讃二九八 教会三三七

私たちの希望は、イエス様によって与えられる救いの約束です。しかし、私たちはこの世の荒波にもまれて希望が見えなくなってしまうような体験をします。

小さな船で海の地形を測量する仕事をしていたことがあります。その時、突然海が荒れてくる。ガリラヤ湖ではそんな嵐が良くありますが、私もそんな体験をしました。

小さな船は横波を受けると転覆てんぷくしてしまいます。また風に流されてしまいます。そんな時、錨を海の底に投げ入れて嵐の終わるのを待ちました。その錨によって私たちは流されません。

聖書にも希望が安定した錨となり、魂にとって頼りになると書かれています。しかしご存知のように、錨があっても舟は移動します。海が深ければ深いほどその移動の範囲は大きいのです。私たちは誘惑や試練によつて、一か所で固定されるような事はなく、あっちこっちへと流されます。でも錨があるならば、その錨を中心として回っているだけです。どんなに翻弄ほんろうされているように見えても、実は安心です。キリストが安定した錨なのです。

●祈り 私の人生にはキリストという錨があります。川崎教会（日ル・神奈川）

5月6日（火）

キリストのひながた　メルキゼデク　ヘブライ七章一〇（三）　讚三二六　教会四六〇

初めてメルキゼデクの話聞いた時。びっくりしたことを思い出します。祭司さいしはアロンの系図であり、レビの部族が務めていました。イエス様はレビ族でないのにどうして大祭司だいさいしと呼ばれる事が出来るのだろうかと理屈つぼく考えていたのです。

ところが、アブラハムの時代に「彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であつて、永遠に祭司です」と言われる人がいました。このメルキゼデクこそ、キリストのひながたです。

メルキゼデクは祭司としてアブラハムを祝福します。その祝福が与えられた中には、のちのレビ族も含まれています。つまりメルキゼデクは、後に律法によつて祭司として立てられるレビ族をも祝福する、より上位の祭司ということになります。人間がなる祭司よりも、もつと力のある永遠の祭司ともいえます。

このメルキゼデクこそ、私たちの救い主、イエス・キリストを指し示しているのです。

●祈り　とこしえの祭司キリストに祈れることを感謝します。河芸教会かわげ（近畿・三重）

律法の限界

ヘブライ七章二一～一九(一九) 讚三五四 教会四一〇

人が律法を守ることによって救われるという事は、旧約聖書の記事を読んでも、また私たちの現実を見ても不可能であることは明らかです。罪の中で苦しむ私たちに対して《律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです》(ガラテヤ三章二四)。私たちには律法ではない救いの道が用意されました。それがキリストを信じる信仰による、神様の一方的な恵みによる救いです。

私は、人間の決めた作法、変わる事のないやり方、古臭いと言われるようなものが好きです。保守的な部分が多い者です。この聖書の時代に生まれていたら、レビの系統の祭司制度に心惹かれる、固執する者であるかもしれません。しかし、「そこに本当の希望はないよ。もっとすぐれた希望があるよ」と、キリストが来てくださっているのです。わたしたちには、このお方に希望をおいて神様に近づくことができる恵みが与えられています。《古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた》(第二コリント五章一七)のです。

●祈り 律法よりも優れた救いの希望に感謝します。西神教会(西日本・兵庫)

変わる事がないという平安　　へブライ七章二〇〜二八(二四)　讚三三八　教会三九二

役所に行つて、困るといふか腹が立つのは、せつかく何回も足を運んで、良い返事をもらつて安心していても、何年かたつてもう一度行つたら、「すみません。その当時の担当者はもう変わつておりまして、わかりません」とか、ひどい時には約束がほごにされる事もある事です。

これは信仰の世界でもある事かもしれません。尊敬していた先生が変わられていた。私の事をあんなに祈り、導いてくださつていた方がもうおられない。

この場合、大体において引継ぎは不正確です。役所でも都合の悪い事は消されています。人間の祭司さいしも同じことが言えるでしょう。

死というものがある人間には限界があります。その事をいやと言うほど、様々な事で体験している私たちは、《しかし、イエスは永遠に生きていますので、変わる事のない祭司職を持つておられるのです》という言葉に言い知れない平安をおぼえます。あなたの事はいつも完全に覚えられており、変わらぬ永遠の救いと執り成しがあるのです。

●祈り　いつまでも変わらない祭司に感謝します。御影教会みかげ(デイ・兵庫)

5月9日（金）

私を弁護してくださる大祭司だいさいいし

へブライ八章一、六（一） 讃三三三三 教会三九三

私たちは、神様の聖きよい律法に照らされた時、誰一人として「私は正しい」と誇れるものはいません。《人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています》（ローマ三章二三）。そして《罪の支払う報酬は死です》（ローマ六章二三）。神様は聖なる方ですから、その聖さのゆえに罪ある私たちを見過ごしにはできません。日々私たちは神様のお怒りの中に歩む者です。

「もうこんな奴は滅ぼしてしまおう」と思われて当然です。しかし、その天の父なる神様の右には私たちの大祭司キリストがいて執り成しをしてくださっています。それは口先だけの執り成しではありません。罪を犯されなかったイエス様が、私たちの受ける刑罰のために、十字架にかり、命をささげられたという、身代わりの死による執り成しです。「私の死ゆえにこの罪人を赦してください」との執り成しです。その事があるゆえに私たちは自分の罪と弱さを認めながらも、安心して神の前に立てるのです。

こんな素晴らしい大祭司が、私たちの事をいつも祈ってくださいています。

●祈り 執り成しを感謝し、人を執り成す者とさせてください。諏訪教会すわ（日福・長野）

新しい契約

へブライ八章七〜一三(一三) 讃三三八 教会二九二

最初の契約とは旧約聖書の律法の中にある契約です。出エジプトの後、荒野で与えられた契約です。神様の与えられた律法を守る事によって神の祝福を受けようとするものです。律法を守って私たちが神様の前に義とされようとするものです。

ところがイスラエルの民はその事に失敗しました。それは今の私たちでも同じです。人は行いによって救われる事はないからです。そしてすでに預言されていたキリストの血による契約が今や有効になりました。私たちの罪のために流された汚れなきイエス様の血。ただ一度流された血によって、永遠に、私たちのそのままで神の前に出て、義とされる恵みに導かれています。

新しいものが現れた時、古いものは間もなく消え失せます。キリストの十字架の死の時、古い契約であった神殿の幕は、真つ二つに裂けました。新しい契約へと変えられたのです。人間による不完全な大祭司だいさいしを通してではなく、神の子キリストという大祭司によって私たちは神様の前に出ることが出来るのです。

●祈り 行いにより自分を義とすることから碎かれますように。沼津教会ぬまつ(日福・静岡)

羊は声を聞き分ける

使徒六章一〜一〇 第一ペトロ二章一九〜二五 ヨハネ一〇章一〜一六

讀三五四 教会四一〇

イエスさまは生まれつき目の見えない人の目を開かれます。それはイエスさまの言葉《神の業がこの人に現れるためである》（ヨハネ九章三）の成就です。イエスさまはもはや人の不幸を罪や裁きとの関係では語られません。神の恵みのみ業との関係で受け止められます。全く思いもよらない新しい時代の到来です。新約とは、この到来した新しい時代との関係に生きるということ。しかし、その新しい時代の到来に強い怒りを持っている人たちがいました。それはヨハネ福音書の《ユダヤ人たち》、つまり当時のユダヤ教の中心にいた律法を用いて自分の義に固着する人たちです。この目の開かれた人は彼らから呼び出され、とうとう会堂から追放されました（九章三四）。新しさが古い時代の人々から権威を使って激しく攻撃されています。

しかし、イエスさまは追放されたその人を仲間に加えつつ、ユダヤ人たちに言われます。《はっきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所から乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼いである》。《はっきり言っておく。わたしは羊の門

である。わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。これらはいエ
スさまの言葉はエゼキエル三四章を基もととしています。そこには、自分を養うため
に羊を飼っている牧者と、新たに神に起こされる牧者《わが僕ダビデ》(三四章
二三)が対照的に描かれています。その言葉の成就を、ヨハネはいエスさまとユ
ダヤ人たちとの激しい対立の中に見出しました。その対立の嵐の中で、いえさ
まは彼らに対して《わが僕しもべダビデ》を言い換えて、《わたしは良い羊飼いであ
る》と言われます。この言葉は《わたし》を強調した文章ですから、「わたしこそが、良い羊飼
いである」ということです。いえさまは嵐の中でも羊が命を受ける良い羊飼いです。

《その羊もわたしの声を聞き分ける》との不思議な言葉が書かれています。聖書を用いながら
自分を養うために羊を飼う《雇い人》の牧者の声があります。聖書を用いながら《羊のために命
を捨てる》牧者の声もあります。私たちの信仰が発する声は、聖書を用いながら自らの義を語る
声なのでしょうか。それとも、他者を義とする、つまり罪を赦す愛を語る声なのでしょうか。

●祈り 私たちもまた、罪を赦す愛の声でありますように。富士教会(日福・静岡)



不完全な中でも

ヘブライ九章一〇(八) 讚二 教会三五八

八章に書かれているエレミヤ書三二章三一以降に基ついて著者は話を進めます。その際、最初の古い契約における礼拝から話を始めています。一節の《地上の聖所》とは幕屋全体のことです。

二節の《聖所》つまり幕屋は、《第二の垂れ幕》で仕切られた二つの部分、《第一の幕屋》と《第二の幕屋》からなっています。《第二の幕屋》は《至聖所》とも言われますが、そこで執り行われる礼拝の中核は「罪の赦し」です。

《第二の幕屋》には年に一度《大祭司》だいさいし一人が入ります。その時、民全体の過失のためのみならず、自分の過失のためにも血を携たずさえていかねばなりません。また、第一の幕屋がなお存続する限り、垂れ幕で仕切られた《第二の幕屋》に民は入られませんので、著者は《聖所への道はまだ開かれていない》と語ります。だから、この幕屋での礼拝は《礼拝する者の良心を完全にすることができないのです》。しかし、幕屋での礼拝は、新しい礼拝を指し示しています。先人たちは不完全な礼拝にあつて、未来の民へ「罪の赦し」の希望を携えた証人だったのです。

●祈り 不完全な中でも未来の民に希望を携しなえられますように。清水教会(日福・静岡)

5月13日(火)

あがな
贖い

へブライ九章二一〜二二(一二) 讚三三三三 教会三九三

著者は、《けれども》という言葉で、一節からの古い契約に基づく礼拝を凌駕するりょうが《新しい契約》を語り始めます。そして、それは《既に実現している》と語ります。福音は過去の出来事ではなくその目的に向かって現在も進行していると断言しています。この言葉で、福音を形骸化けいがいかしているかも知れないと思われました。福音を形骸化させないのは祈りだけでなく、人間の努力でもあります。私は、努力は律法や功績主義ではなく、信仰者の僕しもべの姿と考えます。

《キリストは・・・ただ一度聖所せいじよに入って永遠の贖いを成し遂げられたのです》とあります。キリストの十字架は、《贖い》つまり罪の奴隷である私たちを解放するために支払われる代価としての死でした。その死によって、私たちの《新しい契約の仲介者》とされたのです。それは、《召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐため》です。奴隷は自分を買収する権利を有しません。自由人である主人がその権利を有します。そして、キリストは愛にあつての主人、私たちの《仲介者》とされました。私たちの希望はキリストにかかっています。

●祈り キリストの贖いが新たに思い起こされますように。鵜沼教会(日ル・神奈川)
くげぬま

5月14日(水)

第二の現れに向かつて

ヘブライ九章二三〜二八(二八) 讚三二一 教会三四六

著者は地上の幕屋まくやを《天にあるものの写し》と語ります。そして、《地上の幕屋》は多くの清めの儀式で礼拝用具を清めなければならぬのですが、天にある本物は《まさったいけにえによって、清めねばなりません》と語ります。著者はこの言葉で、キリストの血による清めの完全性を強調しています。そして、《天そのものに入り・・・神の御前に現れてくださった》と語ります。それは《世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献ささげて罪を取り去るため》です。キリストの死は単なる人の死とは異なります。私たちが重々知っているとおり、その死は私たちの罪をあがなうために献ささげられたいけにえとしての死です。

ところで、著者は《人の罪を負うため》の一度目のキリストの現れよりも、《救いをもたらすために現れてくださる》二度目の現れに民を向かわせようとしているようです。赦されているか否か等の《神の言葉の初歩》を卒業させ、《固い食物》を食べる民にしようとしています(ヘブライ五章一二)。共に手を取り合って忍耐の道を歩む大人の信仰者にしようとしています。

●祈り 主よ、私を大人の信仰者として歩ませてください。近畿福音事務局(大阪)

神の目的に歩み出す

へブライ一〇章一〜二〇(一〇) 讚三三四 教会三四九

《律法には、やがて来る良いことの影があるばかりであつて、そのものの実体はありません》。ですから、そこでの献げ物によつては《神に近づく人たちを完全な者にすることはできません》。

《神に近づく人たち》とは祭儀用語さいぎであり、「礼拝に来る人たち」のことです。著者は今までは幕屋まくやでの礼拝規定の用語を使つて語りましたが、今度は《律法》という言葉に言い換えています。ここでは《律法》は礼拝規定と同じ意味です。言い換えた理由は、聴衆は犠牲の祭儀ではなく言葉の礼拝を行っているからでしょう。しかし《律法》によつては《罪の記憶がよみがえつて来る》だけです。罪人であるとの自覚と将来の裁きのみで、そこに希望は見出せません。

その問題のゆえに、神は新しいことを行いました。《第二のものを立てるために、最初のものを廃止されるのです》。これが神の恵みの業です。それは、《ただ一度イエス・キリストの体が献げられ》たことであり、それによつて《わたしたちは聖なる者とされたのです》。《聖なる者とされた》とは、清められるだけではなく、神の目的に謙遜に歩み出す意味も含まれます。

●祈り 私を力づけ、神の目的に謙遜に歩み出させてください。西明石教会にしあかし(西日本・兵庫)

5月16日(金)

真心から神に近づこう

ヘブライ二〇章二一〜二五(二三) 讚一九一 教会二七一

著者は、《すべての祭司^{さいし}たちは、毎日礼拝を献げるために立ち》と《キリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて》を対比させ、キリストの十字架の死が一度限りで十分な贖^{あがな}いであることを明らかに示しています。しかも、祭司たちの《立ち》と《永遠に神の右の座に着き》を対比させて、キリストの犠牲の十分さを引き立たせています。人は一度限りというのは不安であり、量に確かさを求めがちです。しかし、著者は「一度限り」を大切にしています。そして、キリストの一度限りの死に過去、現在、将来の全てを委^{ゆた}ねている、と私は思われます。

著者はキリストの贖^{あがな}いが確かであるがゆえに、《わたしたちは、イエスの血によって聖所^{せいじよ}に入ると確信しています》と語ります。この《確信》は、靈的にとりより、礼拝規定を調べてキリストの贖^{あがな}いの効力を確認したことに基づいているのではないのでしょうか。その確信に立つて、彼は《信頼しきって、真心から神に近づこう》と語ります。この勧めに従って、私たちも確かな信頼をもって礼拝しましょう。交わりでは《互いに愛と善行に励》まし合ひましょう。

●祈り 心からの礼拝と愛ある交わりを建て上げますように。園田伝道所(デイ・兵庫)

5月17日（土）

忍耐のうちに信仰を学ぶ

ヘブライ一〇章二六〜二九（三六）

讚三九九

教会四七〇

キリストを信じた後で《故意に罪を犯し続ける》ならば、それはキリストを裏切ることだと著者は語ります。《故意に罪を犯し続ける》というのは、福音書や種々の手紙を読んでいくと、思いがりと確信犯的意識を持ったキリストの言葉への背信と思えます。そして、《生ける神の手に落ちるのは、恐ろしいことです》と言つて、最上の恐ろしさは神ご自身であると語ります。もちろん、彼がそれを語る理由は裁くためではなく、信仰を奨励するためです。

《あなたがたは・・・苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してください》。実に、聴衆は大きな戦いに耐え抜いていました。《あざけられ、苦しめられて、見せ物にされた》のです。私たち以上に耐え続けていたのです。でも今は疲れています。信仰がもたらす希望も薄れています。これが本書執筆の理由と言われています。聴衆は苦しんできた人々でした。そして、著者も然りしかです。しかし、彼は更なる忍耐に聴衆を導きます。彼は聖書の先人たちのあり方を調べてみて、忍耐こそが信仰の力だと信じているからでしょう。

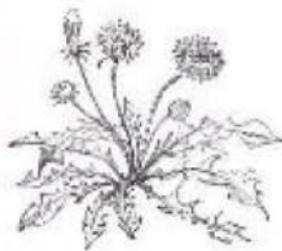
●祈り 忍耐のうちに信仰の深い喜びに至らせてください。しずおか 静岡教会音羽町礼拝所（日福・静岡）おとわちよう

御心になつた求め

使徒一七章一〜一五 第一ペトロ二章四〜一〇 ヨハネ一四章一〜一四
 讃一五三 教会一〇一

イエスさまは弟子たちとの別離をはつきりと宣言されました。すると、ペトロは力を振り絞つて《あなたのためなら命を捨てます》（一三章三七）と言ひ、イエスさまは《あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう》（三八）と答えられます。このペトロに対する言葉は誰にでも辛い言葉ですが、人間の側から神に至る術を全て拭い去る、清めの言葉でもありません。

続けて、イエスさまは言われます。《心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい》と。これは一時的ではなく継続的な命令です。ですから「たとえ今は心を騒がしていても、何時までも騒がし続けるな」と受け止められます。またペトロは離反りはんするわけですが、その状態にあつてもなお信じ続けよ、との意味で受け止められます。私は私自身が救われる思いを持ちつつ、《深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます》（詩編一三〇編一）との、自らの罪の中にあつてもなお救いを求め続ける祈りの歌を想い起します。



《わたしはどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている》。これに対するトマスの応答は《わたしたちには分かりません》でした。イエスさまは《どこに行くのか》ではなく、《その道を知っている》に力点を置いて言われました。しかし、彼は無理解と苦しさのために救いに急ぎ、行き先に目を向けていたのかも知れません。イエスさまはどこへ行くのか私たちも分かりません。しかし、《その道》そのものであるイエスさまとその言葉は知っています。そうであるなら、どこに行くのかは分からなくても、私たちは彼の行く所に必ず行きます。

《御父をお示してください。そうすれば満足できます》。無理解と苦しさのために、フィリポも神を見る神秘的な体験で救われたいのでしょうか。しかし、イエスさまは《わたしを見た者は、父を見たのだ》と言われます。イエスさまは続けて言われます。《業そのものによって信じなさい》と。イエスさまの受難の姿、死に至るまでの神への従順に、私たちは神の救いのみ業を見、この神の愛の働きかけに希望を見出すのです。そして、《わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう》との約束に支えられつつ、苦難にあっても信仰を深め歩き続けます。

● 祈り 苦難の中でも御心になつた求めが祈られますように。静岡教会しずおかひかり礼拝所（日福・静岡）

信仰

へブライ二一章一〜七(一) 讚二七〇 教会四〇一

《信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです》とあります。《信仰》という用語を辞典で調べてもこのような表現は出てきません。著者は、後に出てくる聖書の多くの先人たちの歩みを調べることで、このように語ったのでしよう。ところで、《望んでいる事柄》と《見えない事実》とは神の言葉の性質に似ています。そこで「神の言葉」に置き換えると、「信仰とは、神の言葉を確信し、神の言葉を確認することです」となります。信仰とは、神の言葉を確信してその言葉に歩き出し、その歩みの中で神の言葉が真実であると確認していく人の歩みであるということです。それはまた、神の言葉の証人とされていくということです。

四節以降にアブラハム以前の聖書の先人たちの歩みが書かれていますが、ここではノアを取り上げます。ノアは当時の人々と違って神の言葉に従い、洪水に備えて箱舟を造りました。彼の行為は他の人々から愚かとされましたが、洪水を通り抜けて生き残ったのです。神の言葉に従って生きる者は洪水のように襲い来る苦難をも通り抜けて生きるといふことではしよう。

●祈り 愚かにされつつも、神の言葉が選ばれますように。おしか 小鹿教会（日福・静岡）

5月20日（火）

忍耐に生きる

ヘブライ一章八〜一六（一六） 讚二八一 教会二六九

少し強引なのですが、《信仰によって》を、「神の言葉によって」と置き換えて読んでみてください。こじつけっぽくなる場合もありますが、ほぼ置き換えて読んで大丈夫だろう、それで意味が十分に通ると思います。そうすると、昨日に続き《信仰》という言葉は、「神の言葉に生きることである」と言っつてよいと私は考えます。

ところで、信仰によって生きるということは、《この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした》ということが起こることを明記しています。しかしそれは、《自分たちは地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表した》と著者は語ります。つまり天の故郷の証人となったということです。先人たちは、肉においては辛さ^{つら}を耐えつつ、《更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです》。それは、《神は、彼らのために都を準備されていたからです》。聖書の先人たちは忍耐に生きたからこそ辛さの中で熱望に至り、都を準備する神の姿を見ることができたのだ、と私は思うのです。

●祈り 先人たちの信仰の列に、私も加えてください。
栄光教会藤枝礼拝堂（日福・静岡）
えいこう ふじえだ

試練について

ヘブライ一章一七〜三二（一七） 讚八九 教会三八四

神は、アブラハムに命じて、こう言われました。《彼（イサク）を焼き尽くす献げ物としてさげなさい》（創世二二章二）。なぜ神は、こんなことをアブラハムに命じられたのでしょうか。じつは、「こういうことが実際にあるのだ」と、西村俊昭氏は述べています。にしむらとしあき 私たちは誰でも、答えがすぐには見出せない、《試練》を受けることがあるわけです。

ついに、アブラハムがイサクを殺そうとしたとき、天使は言いました。《その子に手を下すな。何もしてはならない》（創世二二章一二）。エリ・ヴィーゼルは、この個所について、次のように述べています。聖書には書かれていないが、天使は、「その子に手を下すな。何もしてはならない。イサクは生きねばならぬ」と言った。そして、この天使の声をアブラハムは聞いた。だから、アブラハムは、イサクを殺さなかったのだ、と。

私たちもまた、《試練を受けたとき》、「あなたは生きねばならぬ」という神の声を聴きます。だから、答えがすぐには見出せない状況に、耐えることができるのです。

● 祈り 主よ、信仰をお与えください。はんのう 飯能教会（日ル・埼玉）

5月22日(木)

弱さと強さ

ヘブライ一章三二〜四〇(三四) 讚九〇 教会三八二

私たちは、自分だけで重荷を担になわなければならない、と思つてゐるのではないでしょう。そして神も、「あなたの重荷を自分で担つて、しつかり生きなさい」と命じられてゐる、と思つてゐるのではないでしょう。

しかし詩編の詩人は、こう歌つてゐます。《あなたの重荷を主にゆだねよ、主はあなたを支えてくださる》(詩編五五編二三)。ヘブライ人への手紙には、信仰によつて、自分の重荷を神にゆだね、神に支えられて生きた人々の名前が、列挙されてゐます。この人たちは、信仰によつて、《弱かつたのに強い者とされ》たのです。

私たちは普段、生きるということのただごとでない尊さを知らずに、生活してゐるのではないのでしょうか。けれども、困難に遭遇したときに、私たちは、自分で生きてゐるのではなく、生かされてゐることに気づきます。私たちも、信仰によつて、自分の重荷を神にゆだねるとき、弱かつたのに強くなることができるのです。

●祈り 神さま、すべてをお委ねします。三田北摂教会(近畿・兵庫)

5月23日（金）

主の鍛錬たんれん

へブライ二二章一〜二三（五） 讚一六二 教会一五八

へブライ人への手紙には、箴言しんげん三章一〜二が引用されています。《わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけな。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである》。

ここで《鍛錬》と訳されているギリシア語は、子どもを訓練して大人に育てることを意味しています。神は私たち人間を愛し、私たちが苦難を通して成長することができるように、見守ってくださいている、ということなのです。

確かに、いわれのない苦難があります。そのような苦難に対して、この手紙の著者は、なぜ苦難があるのかという理由を問うていません。そうではなくて、苦難を通して人は成長することができるという目的に、注目しているのです。

そして、苦難を通して成長するとは、自分自身の体験によって、他者の苦しみを思いやることのできる者とされるといふことなのだ、と思います。

●祈り 思いやりの心をお与えください。高丘集会所（西日本・兵庫）

5月24日(土)

聖なる生活

へブライ二二章二四〜二四(一四) 讚二九五 教会三四一

へブライ人への手紙には、《聖なる生活を追い求めなさい》と記しるされています。いったい《聖なる生活》とは、どのようなものなのでしょう。

佐伯晴郎さへきはるお氏は、およそ次のように述べています。神を信じる信仰こそが、人間と他の動物との決定的な違いです。神の存在に気づかず、ただあるがままの自然の生活を営んでいるかぎり、私たちは食べて寝て、泣いて笑って、やがて死んで土に帰る動物の一種にすぎません。しかし、私たちが信仰に目覚め、神を仰ぐ時、私たちは真実な愛の深さを知り、これまでとは違った人生、新たな生活を歩み始めるのです、と。

私たちは、新しい一日の歩みを始めるとき、「今日は、どんな厭いやなことがあるだろう」と考えるべきではありません。そうではなくて、「神が、私を導いてくださる」と信じて、一日を始めることが大切なのではないでしょうか。聖なる生活を追い求めるとは、神を信じて、真実な愛の深さを知り、一日一日を大切にすることなのです。

●祈り 新しい一日を感謝いたします。三田さんだフェローシップ教会(デイ・兵庫)

生きるということ

讀一五四 教会九五

使徒一七章二三、三四 第一ペトロ三章八、一七 ヨハネ一四章一五、二一

コ・サ・ミヨシ

ウ・ラのけいこ

高史明氏は、平野恵子さんのことを紹介しています。彼女は、四一歳の時に、癌で亡くなりました。平野さんは子どもたちに、こう言っています。「死は、多分、それがお母さんからあなた達への、最後の贈り物になるはずです。・・・たとえば、その時は、抱えきれないほどの悲しみであつても、いつか、それが人生の喜びに変わる時が、きっと訪れます。深い悲しみ、苦しみを通してのみ、見えてくる世界があることを忘れないでください。そして、悲しむ自分を、苦しむ自分を、そっくりそのまま支えてくださる大地のあることに気付いてください」。

平野恵子さんは、悲しむ自分を支えてくれるものを、「大地」と呼んでいます。聖書はそれを、《聖霊》と呼ぶのです。キリストは、告別説教の中で、弟子たちにこう言われました。《わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である》。《弁護者》と訳されているギリシア語を、ルターは「慰め主」と訳しています。聖霊は、悲しむ者と共にいて、その人を支る「慰め主」なのです。

また、パウロはこう言っています。《わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている》（ローマ五章五）。私たちは、神から命の息（聖霊）を吹き入れられ、これを呼吸して生きています。もちろん私たちは、ただ一人で生きているわけではありません。他の人と共に生きています。それは、神の愛が私たちの心に、注がれているからです。

慰め主であるキリストは、どんな時にも、私たちの肩に手を置いて、こう言われるのです。「君には私がついている。あきらめるんじゃない。私と一緒に喜んでほしい」。いったい私たちは、何を喜ぶのでしょうか。真理を喜ぶのです。

キリストが私たちと一緒にいてくださるということが、私たちの真理です。神の愛が私たちの人生に注がれているということこそが、私たちの真理なのです。だから私たちは、もうだめだと思ふ必要はありません。死に直面した場合ですら、あきらめる必要はないのです。神の愛が私たちの心に注がれているから、私たちは最後まで、他の人と共に生きることができなのです。

● 祈り 主よ、真理を悟らせてください。栄光教会島田礼拝堂（日福・静岡）



神に仕える

ヘブライ二二章三五〜二九(二八) 讚三三三 教会三九三

私たちは、神が命じられた善いことを実行すべきです。しかし私たちは、命じられたことを神のためにするのであって、自分が救われるために善い行いをするものではありません。

一九五六年一月、マーチン・ルーサー・キングの留守宅に爆弾が投げ込まれました。知らせを受けて帰宅したキングは、自宅を取り巻く激昂げききようした黒人の支持者たちを前にして、こう語りかけたということです。「ぼくたちは暴力による報復によってこの問題を解決することはできません。暴力に対しては非暴力をもってこたえなければなりません。『剣を取る者は皆、剣で滅びる』というキリストの言葉を思い起こしてください」。

ヘブライ人への手紙には、《感謝の念をもって、畏れ敬おそいながら、神に喜ばれるように仕えていこう》と記しるされています。神に喜ばれるように仕えるためには、キングと同じように、「キリストだったら、今、どのようになさるだろうか」という点から考えて、神のために行動することが大切なのだ、と思います。

●祈り なすべきことを教えてください。栄光教会焼津礼拝堂えいこう（日福・静岡）

眞の友

へブライ一三章一〜一六(五) 讃二五八 教会三〇〇

箴言しんげん一八章二四には、次のように記しるされています。《友の振りをする友もあり、兄弟よりも愛し、親密になる人もある》。私たちは、喜ぶ友と一緒に、自分も喜ぶことはできるかもしれませんが。しかし、悲しむ友と一緒に、自分も本当に悲しむことはできないのでしょうか。なぜなら、友の悲しみは、競争社会の中では、むしろ自分の喜びになるからです。

残念ながら、私たちは、人の悲しみや不幸を見て、ひそかに安心したり、喜んだりするのではないのでしょうか。このような人が、《友の振りをする友》だと思います。それでは、《兄弟よりも愛し、親密になる人》とは、だれでしょうか。

友の喜びに本当に喜び、友の悲しみに本当に悲しむことができるのは、キリストです。競争社会の中で生きている私たちは、他の人々から離れて、神の前に独りで立って祈るとき、《わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない》というキリストの声を、聞くことができるのです。

● 祈り 友と共に悲しむことができますように。掛川かけがわ・菊川きくかわ教会掛川集会所(日福・静岡)

心を開く

ヘブライ二三章一七〜二五(一八) 讃二七三 教会三五〇

坂口ふみ氏は、ウィーン大学に留学したとき、アレクサンダーという修道僧と知り合ったそうです。アレクサンダーは彼女に、こう言いました。「ぼくがこの世のものをあきらめられるのは、祈りがあるからだ」。そこで坂口氏は彼に、尋ねました。「祈りは独善ではないのか、答えのない、空しいむな独り相撲ではないのか」。彼は次のように答えました。「答えは恩寵おんちようとして与えられ、人は暗闇の中に立つことに堪たえねばならない。しかし、必ず光がくるのだ」と。

ヘブライ人への手紙の中で、著者は、《わたしたちのために祈ってください》と書いています。坂口氏によれば、人と人との対話も、じつは祈りと同じです。祈る場合、答えのあるかないか、またどんな答えが返ってくるかを期待せずに、心を開くことが基本です。他の人に心を開くことができないとき、人と人の交流もいじけた、矮小わいしょうなものへと限られてしまいます。

祈りは、空しい独り相撲ではありません。そうではなくて祈りは、神を信じて、神と人に対して、心を開くことなのです。

● 祈り 主よ、あなたに向って祈ります。掛川かけがわ・菊川きくかわ教会菊川集会所(日福・静岡)

キリストの昇天

ルカ二四章四四～五三(四五) 讃一五七 教会一二二

復活のキリストは、聖書を悟らせるために、弟子たちの心の目を開いて、言われました。《メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる》。

そしてキリストは、弟子たちを祝福し、天にあげられました。神はキリストを、天において御自分の右の座に着かせ、すべてのものの上にある頭として、教会にお与えになりました(エフェソ一章二〇～二二)。

キリストが教会の頭であるということは、聖書を悟らせるために、キリストが私たちの心の目を開いてくださるということに他なりません。教会は、キリストによって心を照らされ、罪を告白することによって、罪からきよめられた者たちの交わりです。

私たちは、礼拝において、この神の恵みに、心から感謝を捧げます。そして、心を一つにして、神を讃美するのです。

●祈り 恵みの神を讃美します。 おのみや 大宮教会(日ル・埼玉)

アブラハムの子

マタイ一章一〜一七(一) 讃二二 教会三〇七

なぜ神の子イエス・キリストは、《アブラハムの子ダビデの子》として、人間となったのでしょうか。土井健司とひけんじ氏の『古代キリスト教探訪』によれば、この点について、ナジアンゾスのグレゴリオスは、およそ次のように述べています。神の子イエス・キリストが人間となり、人間を受容してくださった。こうして神が人間と結びつき、人間は救われる、と。

またレビ記きには、次のように記されています。《自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である》(一九章一八)。最後に《わたしは主である》と述べられているのは、人間が人間らしく、他者と共に生きる関係というものは、人間だけでは切り開かれないからです。私たちは、神によってはじめて、隣人を愛することができるようになるのです。

神の子イエス・キリストが人間となり、人間を受容してくださいました。こうして神が人間と結びついてくださったので、私たちは人間らしく、他者と共に生きることができるようになったのだ、と思います。

●祈り 隣人を愛することができますように。名谷教会みやたに(近畿・兵庫)

愛の戒め

マタイ五章一七〜二〇(一七) 讃三三五 教会四一九

キリストが来られたのは、律法と預言者(旧約の教え)を廃止するためではなく、完成するた
めです。それでは、キリストが完成された旧約の教えとは、具体的には何を指すのでしょうか。

それは、いわゆる黄金律わうごんりつと呼ばれる戒めです。キリストはこう言われています。《人にしても
らいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である》(マ
タイ七章一二)。

私たちが、人にしてもらいたいと思うことを、人にするのは、その人を愛しているからです。
そして、八木誠一氏やぎせいいちによれば、愛しているとき、愛している自分とは何かという自覚が、開けて
くるのです。

ルターは、こう言っています。「キリスト者は信仰において神の愛を受け、愛において隣人へ
神の愛を移す」。他者を愛している私たちは、神の働きになに担われていることを知ります。愛は、
神から出ているのです。

●祈り 主よ、あなたの愛を注いでください。緑が丘教会みどりおか(西日本・兵庫)

6月1日（日）昇天主日

主イエスの証人となる

讀三三七 教会二一〇

使徒一章一〜一一 エフェソ一章一五〜二三 ルカ二四章四四〜五三

鍵を目の前の机の上に置いておいたのに、「鍵がない、鍵がない……」と探しまわることがあります。「見ているのに見えていない」のです。「目が遮かざられている」ことの実感です。

ルカの福音書二四章には、遮られていた心の目が開かれる出来事が二回記録されています。一つは、主イエスがエマオへの途上の二人の弟子たちにパンを裂いて渡されると、《二人の目が開け、イエスだと分かった》（二四章三二）ことです。もう一つは、今日の個所で弟子たちに現れ、《彼らの心の目を開》かれたときです。主イエスは、十字架に架けられる前に三度も受難と復活の予告をされました。旧約聖書の預言が成就することを約束されていたのです。しかし、「心の目が遮られて」いた弟子たちには理解できませんでした。「心の目が開かれ」ていなければ、《メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる》ことが悟れないのです。



主イエスの恵みによって救いに入れられ「心の目が開かれ」た者は、《エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人》となります。私たちの「エルサレム」は、私たちの家族、友人たちです。主イエスを証しすることは身近なところから始まります。私たちの熱心からではなく《高い所からの力に覆われ》、^{おお}聖霊に導かれて「主イエスの証人となる」のです。

弟子たちは、《イエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内において、神をほめたたえ》ていました。私たちも毎週の礼拝に集い、主イエスを神であると告白します。そんな私たちの《体は、神からいただいた聖霊が宿つてくださる神殿》（第一コリント六章一九）です。日々、主イエスと共に生きることが《絶えず神殿の境内に》いることとなります。

《神をほめたたえ》ること、いつも感謝と讚美をささげることが《これらのことの証人となる》ことです。愛する家族のために祈りましょう。私たちが救われたのは、《主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます》（使徒一六章三二）とのみことばが成就するためだからです。私たちは、家族に対する主イエスの証人なのです。

● 祈り 主よ、私をあなたの証し人として用いてください。^{じよはま}豊浜教会（デイ・香川）

主の祈り

マタイ六章七〜一五(九〜一三) 讃四九四 教会四一六

主イエスは、《気を落とさずに絶えず祈らなければならぬことを教え》(ルカ八章一)られました。パウロも《すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい》(エフェソ六章一八)と教えています。ところが今日の聖書では、《異邦人のようにくどくどと述べてはならない。異邦人は、言葉数が多ければ、聞き入れられると思ひ込んでいる》と戒められます。自分のための祈りについては、《あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなの》で「くどくど祈る」必要がないのです。ただし、他者への執り成しの祈りは「絶えず、根気よく」祈ることが大切です。

では、自分のための祈りはどのように祈ればよいのでしょうか。主イエスは、《だから、こう祈りなさい》と「主の祈り」を教えてくださいます。私たちにも祈ることができないときがあります。心が試練で打ちひしがれ、悲しみと不安にさいなまれるとき祈りの言葉すら出てきません。「主よ、助けてください」と「うめき」ながらも「主の祈り」を祈りましょう。

●祈り どんなどきでも主の祈りを祈らせてください。しんれいざん 新靈山教会(日福・静岡)

体のももし火

マタイ六章二二、二四、二五、二三 讃四〇五 教会四三〇

《体のももし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、濁っていれば、全身が暗い》の「澄んでいる」と訳されている原語は「健全である」という意味です。また、「濁っている」という言葉は「病んでいる」という意味です。私たちはとももし火で道を照らされなければ、暗闇の中でつまづき、倒れてしまうでしょう。「目」、つまり私たちの靈性れいせいが健全でなければ心は病み、人生の暗闇の中で迷い、神を忘れて目の前の「富」に心が奪われてしまいます。

では、どうすれば私たちの靈的な目が健全を保てるのでしょうか。それは、主イエスをキリストと信じて受け入れることです。主イエスは、《わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ》（ヨハネ八章一二）と約束されました。主はご自分を信じる者の内に住んでくださり、《あなたの中にある光》となるのです。すなわち、「偽りの神いつわ」になりかねない「富」に仕える者から、真に神に仕える者にされます。「まことの神」に仕える者は、キリストに似せられ、隣人を愛し、隣人に仕える生き方に変えられるのです。

●祈り 主イエスの光に導かれて歩ませてください。
はままつ 浜松教会（日福・静岡）

赦されているから

マタイ七章一〜六(一) 讃四八一 教会四九六

キリスト者にとつてもつとも難しいことの一つが、仲間のキリスト者にその人の罪を忠告することです。今日のみ言葉の《人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである》を知っているからです。主イエスは、《赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される》(ルカ六章三七)とも言われました。このみ言葉を「神に裁かれないために、人を裁くな」、「神に赦されるために、人を赦せ」と読み誤ってはいけません。そうではなく、まず父なる神が私の罪を無条件で一方的な恵みによって赦してくださったことを土台とします。

他者に忠告できる人は、自分が「全く罪人にして、同時に全く義人」とされていることを知る人です。この絶大な主イエスの恵みを知ったとき、「まず罪人の私が赦されている」ことが土台となります。その恵みの中で、他者の罪を忠告できるのです。決して裁くために忠告するのではなく、主の恵みの中で自分の罪と赦しが《はっきり見えるようになって、兄弟の目からおが屑を取り除く》者として忠告できます。そのためには神の愛で満たされていることが大切です。

●祈り 十字架の恵みによって隣人を赦す愛を与えてください。はまな 浜名教会(日福・静岡)

良い物

マタイ七章七〜一二七〜八） 讃三四六 教会五七

先日、教会の老婦人から「医者からもらったばかりの薬が家の中に見当たりません。祈ってください」と祈りの依頼をされました。きっと今日の聖書の《だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ》というみ言葉を思い出されたのでしょうか。祈り求めることが許されていることは幸いです。でも、それだけではありません。このみ言葉のすごいところは、《求める者》、《探す者》、《門をたたく者》の地位や資格や才能には関係なく、「だれでも」《天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない》ことです。

親は子どもに「良い物」を与えたいと願います。要求する前から準備します。《あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている》ように、神は私たちの罪を赦し永遠の命を与えるために主イエスを「良い物」として与えてくださいました。この「良い物」を受け取った者は、神の愛の中で生かされます。その結果、《人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい》という「黄金律」おうごんりつの中で生かされます。

●祈り 人にしてもらいたいことを人にするができるように。みのり教会豊橋礼拝所（日福・愛知）

狭い門

マタイ七章二三〜二四(二三) 讚二二二 教会三〇七

一般に「狭い門」と聞くと、なかなか合格できない難関試験を思い浮かべます。しかし、今日のみ言葉の《狭い門》とは《命に通じる門》であり、《なんと狭く、その道も細い》門です。ここで、「狭い」と訳されている原語は、「行き詰る、苦難」と同じ意味です。主イエスは「行き詰ったような苦難に満ちた門を通して永遠の命の国に入りなさい」と言われるのです。

苦難が人を鍛えるのではありません。苦難を通して、主イエスの助けに信頼することを教えられます。反対に、自分自身に頼る生き方として《滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い》からです。

主イエスの名によって洗礼を受けた者は、十字架につけられたキリストを信じるることによって新たな命の世界に入れられました、新しい生き方が始まっています。すでに、十字架という《狭い門》から入っています。しかし、私たちの周りは《それを見いだす者は少ない》のが現実です。愛する家族や親しい友人が主の恵みによって《命に通じる門》に入れるよう祈りましょう。

● 祈り 家族や友人が主イエスを知ることができまうように。浦和教会(日ル・埼玉)

清くなれ

マタイ八章一〜四(三) 讀一二九 教会七七

《一人の重い皮膚病を患わづらっている人がイエスに近寄り、ひれ伏して》願った理由は、単に病気の癒されることだけではありません。《もし、皮膚に湿疹、斑点、疱疹が生じて、皮膚病の疑いがある場合、その人を祭司さいしアロンのところか彼の家系の祭司の一人のところに連れて行く。祭司はその人の皮膚の患部を調べる。患部の毛が白くなっており、症状が皮下組織に深く及んでいるならば、それは重い皮膚病である。祭司は、調べた後その人に「あなたは汚けがれている」と言い渡す》(レビ記一三章二〜三)とされていたからです。主イエスが、《手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち、重い皮膚病は清く》なりました。その後、《祭司に体を見せ、モーセが定めた供え物を献げて》「あなたは清い」と認められます。

私たちが罪のために「汚れて」います。聖なる神様の前に立つことはできません。しかし、主イエスの十字架の救いを受け取れば、「あなたは清い」と宣言されます。「全く罪人にして、同時に全く義人」とされるのです。この恵みを感謝してお受け入れしましょう。

●祈り 十字架によって「清く」されていることを感謝します。東垂水教会(近畿・兵庫)

心の渇き

ヨエル三章一〜五 使徒二章一〜二 ヨハネ七章三七〜三九

讃三四三 教会一〇四

昔、「乾いて候」という人気のテレビ時代劇がありました。主人公は、まさに「身も心も乾いた」状態で將軍吉宗を刺客から守ります。痛快なドラマでした。この「乾く」は「乾燥の乾」で、潤いがなくなるという意味です。そして、「心が乾いて」いるからこそ「愛に渇き」ます。「愛に渇く」の「渇く」は、満たしてほしいと「渴望する」の「渴」です。

私たちの心も「愛に渇い」ています。しかし、私たちの罪は「心の渇き」を「神の愛」ではなくほかのもので満たそうとします。仕事や趣味に没頭すること、活動や知的探求で気を紛らわすことなどです。自分が心の中心でなければ不安だからです。他の人に心を開くことを恐れるのです。しかし、結局どれも「心の渇き」を満たすことはできません。

主イエスは、《渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい》と言われます。愛に飢え、愛を強く求めている人ならだれでも主イエスのところに来て、神の愛を受け取るように招かれるのです。主は、「心の渇き」を持つ人をだれでも無条件で受け入れられます。



《わたしを信じる者》とは、「私の中へと信じ入る者」と直訳できます。主イエスが神であると告白し、主イエスにのみ信頼を置き、自分の存在すべてをお任せする人です。自分の意志、知識や能力に頼らないで、聖書のみことばによりただ主イエスに頼る人です。主イエスは、《その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる》と約束されました。「水」はキリストの霊、聖霊です。約束の通りペンテコステの日には、弟子たち《一同は聖霊に満たされ》ました。預言者ヨエルの《わたしの霊をすべての人に注ぐ》とのことばが成就したのです。そのときから、主イエスを救い主と告白し、洗礼を受けた人にはキリストの霊が宿ります。

パウロが、《神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません》（ローマ八章九）と言うとおりで、《あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださいる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです》（第一コリント六章一九）と励まします。

● 祈り キリストの霊により心の渇きをいやしてください。みどり 緑が丘教会（西日本・兵庫）おか

6月9日（月）

み言葉の権威

マタイ八章五〜一三（八〜九） 讃一三〇 教会七九

《一人の百人隊長が近づいて来て懇願し、こんがん「主よ、わたしの僕が中風で家に寝込んで、ひどく苦しんでいます」と言った》後、主イエスが《わたしが行って、いやしてあげよう》と言われました。この個所を、岩波版聖書塚本訳では「ユダヤ人のこのわたしが、異邦人のあなたの家に行つてなおすのか」と意識しています。百人隊長が、《主よ、わたしはあなたを自分の屋根の下にお迎えるような者ではありません》と、自分はユダヤ人ではないので神の祝福を受ける資格のない者であることを認めていると理解するからです。これは興味のある訳です。

どちらにせよ、百人隊長は神の無条件の恵みを信じ、《ただ、ひと言おっしゃってください。そうすれば、わたしの僕はいやされます》と主イエスのみ言葉を求めます。それは、自分の経験から「言葉に権威を認める」からです。神を信じるとは、ただそれが神の言葉であるというだけで、その言葉に自分の全存在を委ね、その言葉に基づいて生きることです。主イエスは、《イスラエルの中でさえ、わたしはこれほどの信仰を見たことがない》と称賛されました。

●祈り み言葉に権威を認めて信頼する信仰をお与えください。たかまつ高松教会（デイ・香川）

6月10日(火)

いやし主イエス

マタイ八章一四〜一七(一七) 讃一三五 教会八五

現在、ガリラヤ湖の北岸カファルナウムにはペトロの家の遺跡があります。主イエスはカファルナウムを宣教の拠点にされていたので、このペトロの家にもよく立ち寄られたのでしょう。

このペトロのしゅうとめが熱を出して寝込んでしまいました。そのとき、《イエスが彼女の手に触れられると、熱は去り、しゅうとめは起き上がってイエスをもてなした》とあります。その後、《イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆いやされた》のです。主イエスご自身の存在が神の権威ですから、そこには神のみわざが現されました。

マタイは、この出来事をイザヤの「主の僕」の預言《彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った》の成就と記しました。主イエスは、私たちの「患いを負い、病を担って」くださるお方です。さらに、《彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた》(イザヤ五三章五)のです。主イエスを信じる者には患いや病からのいやしにもまして「罪からの回復」という究極のいやしが与えられます。

●祈り 心も体もいやしてくださる主に感謝します。みのり教会田原礼拝所(日福・愛知)

6月11日（水）

永遠の神の国を望みつ

マタイ八章一八、二二、二〇）

讚二八五 教会三九五

日本でキリシタン禁令が解かれたのは、ほんの一四〇年前のことです。その直前には、明治新政府によるキリシタン弾圧で、六〇〇人以上の人が命を落としました。その中で立派に信仰告白した人たちを思うと自分自身が恥ずかしくなります。信仰の自由が与えられているのに、どうしてもっと大胆になれないのか、いったい何を恐れているのかと反省させられます。

《人の子には枕する所もない》とイエス様は言われました。これは、決して悲しいことではありません。すでに天に国籍がある自由、今あるものに縛られない自由があるということです。イエス様は、エルサレムに、すなわち十字架に顔をまつすぐ向けて進んで行かれました。この主に従っていくとは、この体、命が脅かされても、堂々と信仰を告白することができる自由に生きることです。さらに主に従うとは、死に勝利し、死から復活されたお方に従うということです。

私たちは地上では旅人です。イエス様が約束してくださった永遠の神の国を、はるかに望みつ、大胆に今を生きていきます。

●祈り 主よ、すでに天に国籍があることに信頼します。岡崎教会（日福・愛知）

叫びに耳を傾けるイエス様

マタイ八章三三〜二七(二六) 讃二九一 教会三三六

健康診断の結果、精密検査を受けるようにと言われたことがあります。その結果が出るまで、もし悪い病気だったらと思いい悩み、ほとほと疲れ果てました。結局何ともなく、ほっとしたのですが、こんなことで本当に病気になったらどうなることやらと情けなくなりました。

それどころではない、今まさに試練の中にあつて《主よ、助けてください。おほれそうです》と叫ばざるをえない方もおられるかもしれません。困難に押しつぶされそうになつて、ただ泣き叫ぶことしかできないかもしれません。主は眠つておられて、私の苦しみにも痛みにも気づいておられないように感じる夜もあるかもしれません。

けれども、嵐を静めてくださったイエス様は、あなたの叫びに耳を傾けてくださっています。ですから私たちは安心して「主よ、助けてください」と叫ぶことができます。弱さの中に働かれる主が、苦しみの中でも、それにはるかにまさる心の平安を与えてくださいます。さらにこの一時的な苦しみをはるかに超えた永遠の喜び、天の御国の平安へと導いてくださいます。

● 祈り 主よ、私の叫びを聞いてくださることに信頼します。刈谷教会かりや(日福・愛知)

6月13日(金)

「かまわないで」と言われても　マタイ八章一八〜三四(三二)　讚二八六　教会四五〇

悪霊あくれいに取りつかれた二人の人が叫びます。《神の子、かまわないでくれ》。

イエス様を宣べ伝えようとするとき、私たちもしばしば同じように言われます。「私にかまわないでくれ」と。その人は、悪霊につかれていますではありません。むしろ精神的に落ち着いていて、社会的にも申し分のない方です。ですからなおさら、私はこのままで十分、変わる必要はない、私の人生に関わらないでほしいと思われ的那样でしょう。

けれどもイエス様は、拒絶されてもなお二人の人に近づき、彼らの抱えている問題を解決してくださいました。その人生を新しく造り替えてくださいました。

この主が、今は「かまわないでくれ」と言っている人にも近づき、その心を新しくしてくださいますようにと私たちは祈ります。それは私たちを造られたお方、御子さえも惜しまず与えてくださったお方の愛があまりにすばらしいからです。この主イエス様を愛し、このお方の喜ばれる歩みをするには、すべてにまさる喜びだからです。

●祈り　主よ、身近なあの人を造り替えてください。挙母教会しょうも桜町礼拝所さくらまち(日福・愛知)

6月14日(土)

罪の赦しはあなたにも

マタイ九章一〜八(六) 讃三五二 教会三五二

昨年十一月の聖書日課はレビ記でした。罪の赦しのために、どれだけ多くの犠牲が必要で、どれだけ多くの血が流されなければならないのかを教えられました。

律法学者は、これらの教えから、罪の赦しの重みをよく知っていました。ですから、イエス様の《あなたの罪は赦される》との言葉は、とんでもないことに思えたでしょう。神以外に罪を赦すことなんてできないのに、この男は《神を冒流》ほうとくしていると怒りに満ちあふれました。

けれどもイエス様は罪を赦す権威を持っておられます。そのことをはっきり目に見える形で示されました。主の一言で、中風の人は起き上がり、家に帰って行きました。この権威あるお方が十字架で血を流し、私たちの罪の赦しを成し遂げてくださいました。

すべての信仰者に、このイエス様の罪の赦しの権威が与えられています。ですから、主の権威によって、牧師は毎週の礼拝で罪の赦しを宣言します。家庭、職場などで、いろんな悩みを打ち明けられるとき、あなたも主の恵みに信頼して、大胆に罪の赦しを宣言することができます。

●祈り 主よ、罪を赦すイエス様の恵みに信頼します。たてはやし 館林教会(日ル・群馬)

6月15日(日) 三位一体主日

ずつと友だちだよ

讀六七 教会二二六

イザヤ六章一〜八 第二コリント一三章一一〜一三 マタイ二八章一六〜二〇

かつらじやくじやく

落語家の桂雀々さんが、その著書『必死のPATCH』で自身の子供時代を振り返っています。父親が借金をこさえ、まず愛想をつかした母親が出て行き、さらに父親も出て行ってしまいました。けれども近所の方や民生委員のおばさんに助けられつつ、なんとか生きていったそうです。「自分のことを大事に考えてくれる人が側にいてくれるという事実がたまらなく嬉しかった」と言っておられますが、そのとおりでしょう。

《わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる》。私たちのために十字架にかかり罪を赦してくださいましたイエス様の約束です。主は今も、天の父なる神の右におられ、日々、私たちのために祈ってくださいています。一人ぼっちの時、他の人が見捨てられるような時も、あなたを見捨てず、あなたのために祈ってくださいています。

このように約束された弟子たちと私たちが、それにふさわしかったわけではありません。イエス様が捕ら^とえられた時、弟子たちは散り散りに逃げ去り



ました。ペトロは勇氣を出してついでにこうとしましたが、三度も「知らない」と否定してしまいました。「いつも共にいる」の逆、主が一番大変な時に見捨てて一人ぼっちにしてしまったのです。

けれどもそんな弟子たちを見捨てず、《わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる》と約束してくださいました。一方的な恵みです。この愛、恵みに信頼することができます。

この主が私たちをうながしておられます。《あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によつて洗礼を授け》と。すべての人が、共にいてくださるイエス様の愛と平安のうちに歩むことを主は望んでおられます。

宣教において困難が伴うこともあります。弟子たちの多くも迫害によつて殉教しました。けれども、あきらめることなく大胆に福音を宣べ伝え続けました。共におられるイエス様が支え続けてくださったからです。私たちも愛と平和の主が共にいてくださることに信頼して、励まし合いながら、主の愛を周囲にあらわしていきます。

● 祈り 主よ、共にいてくださることに感謝します。六甲教会ろっこう（近畿・兵庫）

花婿がいつまでも

マタイ九章一四、一七(一五) 讃二九四 教会三三二

日本で牧師をしておられるイラン人の方の信仰を持つきっかけになったお話です。

軍隊に入ると、そこは食糧も不足しているひどい環境で、人々の心は荒れずさんでいました。けれども、そのような状況でも、いつも変わらず笑顔で優しく、あらゆるものを分かち合っている人がいました。「どうしてそんな笑顔で優しくしていることができるのですか」と聞くと、その人はこう答えました。「それは私ではありません。私と共にいてくださるイエス様です」と。イエス様は花婿として私たちと一緒にいると約束してくださいました。この花婿は、ご自身を持っておられるすべての良いもの、罪の赦し、永遠の命、平安、喜びをプレゼントしてくださいました。一時的な優しさではなく、変わらない愛で支え、導いてくださいます。

ですから私たちは目の前のことに揺るゆがされません。苦しみの中にあるとき辛いのは、だれもこの悩みを分かってくれないと感じることかもしれません。しかし、決してひとりぼっちではありません。花婿イエス様が、あなたのために今日も祈ってくださいています。

●祈り 主よ、花婿イエス様の愛に信頼します。あお教会(西日本・兵庫)

6月17日(火)

眠りから覚める日を

マタイ九章一八〜二六(二五) 讃四九六 教会八八

私の息子が亡くなったとき考えたのは、妻をどのように慰めようかということでした。誰かに「生き返らせてください」とお願いに行くなんて思いもしませんでした。ですから、《手を置いてやってください。そうすれば、生き返るでしょう》とのこの父親の言葉には驚かされます。

大切なことは、イエス様には死人を生き返らせることができるということです。いくら強く願い、知恵の限りを尽くしても、死という現実の前に、私たちは立ちすくむしかありません。

しかし、イエス様こそ人にはできないこともおできになるまことの神です。この父親の願いに応え、死んだ娘を生き返らせてくださいました。さらにご自身、十字架で死なれた後、三日目に死と墓を打ち破って復活してくださいました。しかも主にあつて眠っているすべての人も、もはや死も涙もない新しいからだに復活させてくださいます。

しゃぼん玉のように生まれてすぐに亡くなってしまった息子と、天の国でどのように出会うのだらうかと、眠りから覚められるその日に思いをはせています。

●祈り 主よ、復活の希望に感謝します。すみよしやまて 住吉山手教会(デイ・兵庫)

わが喜び　わが望み

マタイ九章二七、三二（三二）　讚五二七　教会一〇五

昨年、私たちの教会で長い間忠実に歩まれた方が亡くなりました。その方は、途中で失明され、母校の視覚特別支援学校で教鞭を取っておられました。さらにネパール点字図書館建設に尽力されました。前夜式、告別式には目の不自由な方が多数参列され、点字の讚美歌により、故人の愛唱讚美歌『わが喜び　わが望み』、主イエス様こそ私の喜びであり望みであり、このお方を「昼たたえ　夜歌いて　なお足らぬを思う」と歌う大合唱が会堂に鳴り響きました。主から与えられた恵みを語り伝えずにはいられなかった、その生涯に感銘を受けました。

イエス様によって目が見えるようになった二人の人は、イエス様から「このことは、だれにも知らせてはいけない」と厳しく命じられているにも関わらず、「その地方一帯にイエスのことを言い広め」ました。受けた恵みの大きさのため、黙っていることなどできなかったのです。

イエス様が、私たちの心の目を開いてくださいました。ですから、主を讚美し仕えることは、すべてにまさる喜びです。恵みを語り伝えずにはいられません。

●祈り　主よ、恵みを語る幸いに感謝します。知多教会半田礼拝所（日福・愛知）

6月19日(木)

教会に行けないあなたに

マタイ九章三二～三八(三六) 讃二四三 教会四一〇

私たちの教会は貸室が大盛況です。一か月で七〇～八〇時間、いろんな合唱団やフルート教室や町内会の会議などに利用されています。さらに、音楽ができる方が多く、夏の音楽礼拝、秋のコンサートやクリスマスなどには、会堂がいっぱいになります。

けれども残念ながら、その方たちは普段の礼拝には来られません。毎週、合唱団の練習で教会に来られている方までもが「私なんか礼拝に行つていいの?」と言われます。お話をうかがうと、将来のこと、人生のことを真剣に考え「私も信仰を持ちたい、永遠の命の希望、揺り動かされない平安がほしい」と望んでおられているのにもかかわらずです。「真剣に礼拝している方たちの邪魔になつてはいけない」と言われます。イエス様の導きを心から祈らされます。

イエス様は《群衆が飼ひ主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れ》んでくださいました。この主が、教会に行きたいけれど行けない方たちをとらえてくださいますようにと祈りつつ、今なすべきことを精一杯なしていこうと願わされます。

● 祈り 主よ、あなたの深い憐れみに信頼します。知多教会常滑礼拝所(日福・愛知)

6月20日（金）

神様のような人でなく

マタイ二一章一〜一九（一九） 讃三三三 教会三〇八

「人々は『神様のような人』には来てもらいたくないけれど、『神様ご自身』には来てほしくはないと思っている」と、ある教会員が言いました。「神様のような人」とは、神様のようなすごい力を持って、私の問題、悩みをあっと言う間に解決してくれる人です。

預言者以上の者である洗礼者ヨハネが来ているのに、人々はあくれい《悪霊に取りつかれている》と拒否しました。神の子イエス様さえちようせいじん《大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ》と、さんざんに言われています。自分の願いどおりにならないヨハネとイエス様に不満たらたらです。

これは他人事ではありません。神に従うなんてとんでもない。神を自分の願いをかなえてくれる道具のように考えてしまう。神を神として尊ばない、私たちの罪の姿です。

けれどもそんな罪人のために、イエス様は十字架にかかってくださいました。私たちは、このお方を王として生きていきます。苦しみの中も、はるか永遠の喜びに生きる約束に信頼しつつ、病の中にある人、貧しさにあえぐ人を憐れまれたお方の慰めをいただきつつ歩んでいきます。

●祈り 主よ、愛なるイエス様こそ私の王です。なごや希望教会いまいけ今池礼拝所（日福・愛知）

灯台下暗しとうたいくら

マタイ二一章二〇〜二四(二四) 讃二七一 教会二九九

コラジンもベトサイダも、そしてカファルナウムも、いずれもガリラヤ湖周辺にあつて、いわばイエスさまにとってはお膝元の町々でありました。一方、ティルスやシドンはユダヤ人にとっては外国の異教徒の町であり、ソドムは神の裁きによつて滅ぼされた町でした。さて、イエスさまの救いに与るのに相応ふさわしい町はどれでしょうか。もちろん、お膝元だからではなく、悔い改めるものが相応あずかしいというのです。

何を悔い改めるのでしょうか。今日の聖書から見えてくるのは、いわゆる特権意識でしょう。お膝元だから、ユダヤ人だから、イエスさまの弟子だから、キリスト者だから、宗教改革の第一人者、ルターの名前を冠したルーテル教会員だから、その教会の牧師だから。

たたけば出てくる埃のように、次々と形を変えて、特権意識にじが滲み出て来るのです。そんな自分と向き合えば向き合うほど、ああ、だからイエスさまなのだと思ひます。そして、イエスさまを三度も否いなんだ時のペトロを見つめた主の眼差しが、こんな自分にも注がれるのです。

●祈り こんな私を慈しんでくださる主に感謝します。なごや希望教会自由じゆうが丘礼拝所おか(日福・愛知)

権威ある教え

申命記二一章一八〜二八　ローマ一章八〜一七　マタイ七章一五〜二九

讀三三三　教会三九一

かなり以前からですが、若者たちがマニュアル人間と化していると言われ続けています。マニュアルは機械操作をする時には、なくてはならないものです。ただ書かれた通りのことを行えば良いので、楽と言えば楽です。しかしそのことに慣れてしまいますと、マニュアルに書かれていない事態に遭遇したときには、慌あわててしまいます。普段から、自分で考えずに人から言われた通りをすることで過ごしてしまいますと、想定外の事が起こった時に、なかなか応用が利かなくなってしまうのです。そんな傾向を若者たちのうちに見ているのでしよう。

信仰生活にも当然、マニュアル化は忍び込んで来ます。この場合は、応用が利かないと言うよりも方向が逆になりがちです。想定外の事態を、むしろマニュアルに無理やり当てはめようとはまずから、当てはまらないものは悪いもののように見なされてしまいます。神さまの言葉が文字になつて、聖書として与えられて行くなかで、信仰生活のマニュアルにすりか



わつてしまふとしたらどうでしょうか。イエスさまが問題にした、いわゆる律法主義はまさにそれだと思います。マニユアルは、それに合わないものにダメ人間というレッテルを貼らせませす。そしてダメな人間という先入観を増長ぞうちやうさせませす。

今日のマタイ福音書の中に、いくつか気になる個所があります。一つ目は《彼らは羊の皮を身にまといながら、あなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である》。二つ目は《わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない》。三つ目は《わたしにこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている》。いずれも見た目はさもマニユアルに沿っているように振舞っているけれども、見えないところではマニユアルにも、そしてもちろん神のみ心にも全く沿っていない人間の姿を見ませす。

この時、イエスさまは《権威ある者としてお教えになつた》と言います。平たく別の表現をするならば、「常識を超える者としてお教えになつた」。まずもつてレッテルや先入観を取り払うのです。生身の私を見て、本当に神の言葉に生かされる者へと造り変えてくださるのです。

● 祈り あなたはこんな私も神の言葉に生かしてくださいませ。福島教会（日ル・福島）

安息日の主

マタイ二二章一〜八(八) 讃三〇四 教会三二四

《人の子は安息日の主なのである》というイエスさまの言葉を、悪くとるならば、イエスさまは安息日の規定を、勝手に解釈できるお方だということになります。それでは当時の人々からすれば、全くの異端者いたんしやになってしまいます。実際そういうことで、十字架に付けられたということもあるでしょう。しかし異端者扱いをされながらも身を挺ていして現されたのは、愛の神さまであります。そのことは、律法の専門家の試そうとする問いかけに対する応答に、はっきりと示されています。すなわち、神を愛することと、隣人を愛すること。聖書の全体は《この二つの掟に基づいている》(マタイ二二章四〇)のです。

児童精神科医の佐々木正美さんの、ある講演記録の次の言葉が目に残りました。「人間というのは、自分のためだけに何かをして幸福になった人というのはほとんど見たことがありません。……人間というのは、人を幸福にすることが、自分の幸福になります」。

神さまの愛に応えて、隣人を愛する本当の人間の生き方を、主が備え導いてくださいます。

●祈り 主よ、真の人間の生き方を私にも備えてください。宝塚教会たからづか(近畿・兵庫)

6月24日（火）洗礼者ヨハネの日

いと高き方の預言者

ルカ一章五七〜八〇（六六） 讃三四四 教会三九六

聖書の中には印象深い赤ちゃん誕生物語が、少なからず記しるされてあります。アブラハムを父として生まれたイサク。そのイサクを父として生まれたエサウとヤコブ。それぞれに誕生前から、神さまの働きがあることを聖書ははっきりと伝えていきます。

そして今日のヨハネの場合も、もはや子どもは与えられないと思っていた高齢の両親から、神さまの預言通りに誕生したのです。その神さまの働きは、単に誕生するはずのない者から生まれ、ということだけに見るのではないと思います。生まれる前から、その命にすでに使命が備えられているということです。ヨハネはやがて登場されるイエスさまを救い主として世の人々に指し示す使命を与えられて誕生しました。

使命を伴う誕生は、ヨハネだけのことではないと思います。今の私たち一人一人にも、それぞれに相応ふさわしい使命が備えられて、生まれて来たのだと思います。そしてその使命は様々ですが、優劣はありません。ただし共通することは、主を指し示すことです。

●祈り 主よ、こんな私にも使命を備えてくださり感謝します。社教会やしろ（西日本・兵庫）

人間ははるかに大切

マタイ二二章九〜一四(一二) 讃二四〇 教会二九五

ユダヤ教では、一週間の最後の日を安息日と呼んで、いかなる労働行為も禁止されておりました。治療行為も禁止でした。ただし、命に関わる怪我や病気の場合には、安息日であっても治療行為は許されるという例外規定もありました。

安息日の礼拝のために会堂に入ったイエスさまは、そこにいた片手の萎えた人の手を、元通りに治しました。片手の萎えた人が、例外規定には当てはまらな^ないと思っていた人々は、イエスさまが禁止されていた行為を取ったと思つたでしょう。

傍から見れば、何も安息日に行わなくとも、一日待てば済むことだろうと思ひます。しかし、片手を患^{わずら}う当人にとっては、一日でも早く治ることを願ひ続けて来たことでしょう。少なくともイエスさまは、まず当人の思いを汲み取られておられます。それは安息日に穴に落ちた自分の羊を、直ぐに助け上げようと思ふのと同じだとおっしゃられます。

そんなイエスさまの顧み^{かへり}が、全てのお一人お一人に、必ず備えられているのです。

●祈り 人を偏^{かたよ}り見ない主に感謝申し上げます。ときわ台教会(デイ・大坂)

6月26日（木）

神に選ばれた者

マタイ二二章一五〜二二（一八） 讃三八三 教会三四六

三年前の東日本大震災の時もそうでした。そしてそれ以後も、集中豪雨、竜巻、台風などによって、多くの方々が被害を受けられ、今も不自由な避難生活を強いられています。その度に、神さま何故なんですかと問わざるを得ません。様々な理不尽とも思える出来事と、神さまの存在とが、いつまでも折り合えないでいる自分を見ます。

イエスさまの存在も、出会った当時の人々にとっては、分からないことだらけだったと思います。預言によって待ち続けた、あのメシアではなからうか。いやあの有名な預言者の生まれ変わりで。人々はそれぞれの期待に沿って、イエス像を造り上げて行つたと思います。そしてその期待にそぐわなければ、離れて行く者もいたでしょうし、殺意を抱く者までもいました。

そんな人間の期待や筋書きや思い込みが、自分勝手ではかないものであることを、イエスさまはよくご存じでしたし、そういう人間の弱さもよく受け留めていてくださいます。

イエスさまが何者であるのか。それは聖書に聞く以外にないのであります。

●祈り 主よ、あなたの思いに立たせてください。なごや希望教会名東礼拝所（日福・愛知）

6月27日(金)

聖霊に従う

マタイ二二章二一〜三二(三二) 讃三二六 教会四六〇

人から言われたことしかししない、臨機応変に対応できない人を、マニユアル人間と呼ぶことがあります。これは聖書の中で批判されている、律法主義者たちのものであり、神さまによって与えられた律法を、救いのためのマニユアル書と化してしまつたからです。

救いに与る^{あずか}ためには、書いてあることをただ守ればよいと言われますと、こんな簡単なことはありません。もちろん書いてあることが守れるかどうかという問題は残りますが、とりあえず救われるためには何をすればよいのかと、悩む必要はありません。

イエスさまはマニユアル通りに守れることを期待するよりも、自分が何をする^{する}ことが神のみ心かと考え、悩むことを喜ばれます。その時の人間は、必ず救い主に向かつています。

マニユアル任せではなく、本気で悩んで祈つた末に下した決断、そこにこそ聖霊の働きがあると聖書は言います。そして、その決断の結果が不本意なものに思えたとしても、その次の決断をさらに聖霊の働きに委ね^{ゆた}ればよいのです。この聖霊の導きに信頼して行きたいのです。

●祈り 聖霊の本当の働きを教えてください。名古屋^{なふるや}めぐみ教会(日福・愛知)

その結ぶ実

マタイ二二章三三〜三七(三三) 讃三九五 教会四一八

私は教会附属幼稚園の園長も兼任しております。ある卒園児の保護者の方からこんな言葉をかけていただきました。「園長先生が礼拝で、捨てられたごみで川が汚れているお話しをされたことが息子には忘れられないようで、中学生になった今もそのことを家で話しているんですよ」。私はこれを聞いて、嬉しく思うと同時に責任の重さを実感させられました。

キリスト者は神さまの言葉によって生かされていると信じる者です。言葉そのものは無力に見えますが、聞いてためになるとか、知性を感じさせるような素晴らしい言葉がたくさんあります。他方、たとえ拙い単純なものであっても、その言葉に真実を感じさせられる時、不思議と力が湧いて来ます。イエスさまの生涯と生き様を思う時、イエスさまの言葉はまさに、それだと思えます。地上の生涯と今もキリストの教会を通して、真実の言葉が語られます。

実を結ぶのは、一瞬で起こされることはありません。年月がかかります。今は空っぽどころか悪いものがあっても、真実の言葉がこんな私を造り変え続けてください。

●祈り 主よ、あなたの言葉こそ私を造り変え実を結ばせます。復活教会(日福・愛知)

罪人を招くため

讀一八〇 教会三二七

ホセア五章一五〜六章六　ローマ五章六〜一一　マタイ九章九〜一三

幼稚園で定期購読しているキリスト教保育雑誌の中に、最近書かれていた次のような個所が目にとまりました。「保育は生活であり、その人の生き方につながるものなので、正解や決められた答えがひとつでないことは自明じめいです。ですから、保育者が迷ったり悩んだりすることは、当たり前のことであるといえます。そうすると、保育者は他の専門職と異なり、何ができるかということに目を向けるのではなく、その専門性として、迷ったり悩んだりすることを含んでいると捉えてみるができます」。

専門職というと、迷ったり悩んだりしない人のように思います。しかし、保育者は違うというのです。迷ったり悩んだりすることは、子供を「きめつけ」ないし、マニュアル通りに当てはめようとしなからず。神さまもきつと人間をこんなふうふうに導こうとされているのでしよう。そうだとすると、神さまが迷ったり悩んだりされているのでしようか。少なくともイエス



さまは、《神の身分でありながら・・・人間と同じ者になられ》（フィリピ二章六、九）たお方ですから、迷ったり悩んだりされることもあるのでしょう。それは、見た目には専門職らしからぬ姿ですが、それこそイエスさまに相応ふさわしいお姿だと思います。そんなイエスさまが、今日の福音書にあるように《わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである》とおっしゃられるのは、何となく分かるような気がします。

そう言えば、イエスさまは別の個所でこんなこともおっしゃっています。《子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである》（マタイ一九章一四）。イエスさまのみ前にあつては、むしろ積極的に「子供」でありたいと思わずにはいられません。そしてイエスさまも積極的に、私のことを知ろうとしていてくださっているのだと思います。

私のことを知っていてくださるイエスさまが共におられるからこそ、今日も大胆にチャレンジします。失敗もあるかも知れませんが、でも、イエスさまは丁寧に付き合っていてくださいます。

● 祈り 主よ、私の成長に丁寧に付き合ってください感謝です。高蔵寺教会（日福・愛知）

6月30日(月)

しるしを欲しがらる

マタイ二二章二八〜四二(三九) 讃二五二 教会二九八

人間は見えるものに揺り動かされます。神さまの救いが目に見えるしるしで保証されれば、安心できます。厄除けのお札やお守りも、その現れでしょう。教会の洗礼証書でさえも、そんな役割を担ってしまいかも知れません。

キリスト教会初期の伝道者パウロは次のように告白しています。《わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです》(第二コリント四章一八)。しかし分かっている、やはり見えるところに踏みとどまってしまおうのです。

そんな弱さを持つ人間のことを、神さまはよくご存じです。そこで神さまはご自分を現すために、唯一の見えるしるしを送ってくださいました。イエス・キリストです。《わたしを見た者は、父(神)を見たのだ》(ヨハネ一四章九)と、イエスさまご自身がおっしゃっています。

そのイエスさまは今や、キリストの教会を見えるしるしとして、備えていてくださいます。

●祈り 教会の証しによって見えないものに目を注ぎます。郡山教会(日ル・福島)

代表交代のご挨拶

前代表 江藤直純

「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」、その通りです。ルーテル教会は「み言葉に立つ教会」を標榜ひょうぼうしてきました。ですから、信徒にも求道者にもどなたにも三百六十五日、み言葉とその説き明かしをお届けすることは教会の使命です。

長く愛読されてきたのに出版社が閉鎖になった時、これだけは何としても続けなければならぬとの熱い思いを持った故小泉潤牧師の呼び掛けで、まさに手作りで『聖書日課』を継承・発行しました。一九九二年一月のこと、千五百部でした。それ以後、執筆者研修会、読者の集い「聖書日課セミナー」も毎年開催し、『日課』も本（約三千七百部、読者数推定四千人）、点字版、朗読テープ、インターネット、携帯電話でメッセージをお届けできるようになりました。神さまの祝福、読者の方々の支持、教職の方々の執筆と勧めの協力のおかげです。

今般私がルーテル学院大学の学長になり多忙となるため、二十二年務めた委員を辞し、代表を永年の同志、敬愛する須田博之先生に引き継いでいただきました。これまでのお支えを心から感謝します。これからも『聖書日課』をよろしくお願いいたします。在主平安

就任のご挨拶

この度は思いがけず、江藤先生がルーテル学院大学の学長に選任され、ルーテル聖書日課を読む会代表を降り、委員としても去らなければならないという事態となりました。江藤先生は、信仰によるご人格も、学識も大変立派な方であり、小生の如き小器では代表の荷は重すぎるのでありますが、江藤先生が復帰されるまで、神様からのお召しとして、小生が代表を務めさせていただくことと相成りました。

ルーテル聖書日課が読者の方々の信仰の養いに一層貢献できますよう、力を尽くして参ります。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成二六年一月二〇日

須田 博之

聖書日課九〇号 あとがき

○ルーテル学院大学の学長に就任される江藤直純先生のご健康とお働きの上に主のお守りと豊かな祝福がかさねてありますように心より祈ってやみません。聖書日課の代表を退かれることは聖書日課委員会としてはさみしいかぎりですが、読者の方々のお祈りに支えられて、これからもまいりたいと思います。かさねてどうぞよろしくお願いいたします。

○新しく代表を務めてくださる須田博之先生は聖書日課を心から愛しておられるまさに聖書日課の顔ともいえる先生です。とても多忙な日常業務のなか、代表を引き受けてくださいました。一同、心から感謝をしております。

○日本福音より太田一彦先生が委員として加わってくださいました。太田先生には緒論の執筆をはじめ聖書日課のために今後ご尽力いただきます。また、「あとがき」は今回から委員持ち回りで執筆することとしました。

○秋の読者の集いは「テサロニケの信徒への手紙」を主題に、講師は江藤直純先生です。ご期待ください。会場は浜名湖かんざんじ温泉「ホテルウエルシーズン浜名湖」(〒浜松駅からシャトルバス45分)です。詳細は次号にてお知らせします。

(高橋)

聖書日課90号 (2014年4月～6月) 執筆者

4月1～10日	近藤 幸一 (近畿福音ルーテル南大阪教会牧師)
4月11～20日	乾 和雄 (日本福音ルーテル神戸東教会牧師)
4月21～30日	伊藤 早奈 (日本福音ルーテル東教区付東京老人ホームチャプレン)
5月1～10日	豊島 守 (ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師)
5月11～20日	土反 賢一 (日本ルーテル教団新発田教会牧師)
5月21～31日	沼崎 勇 (日本福音ルーテル京都教会牧師)
6月1～10日	深尾 吉照 (西日本福音ルーテル大田教会牧師)
6月11～20日	山下 寛 (近畿福音ルーテル東垂水教会牧師)
6月21～30日	清水 臣 (日本ルーテル教団戸塚教会牧師)

表紙デザイン	石田 芳子 (近畿福音ルーテル帝塚山教会員)
文中カット	大輪 まり (日本福音ルーテル札幌教会員) 奥野 さつ子 (日本福音ルーテル天王寺教会員) 中塚 ゆかり (西日本ルーテル西神教会員)
表紙の題字	原 敏子 (日本ルーテル教団六本木教会員)

ルーテル「聖書日課」を読む会・発行委員

近畿福音ルーテル教会	須田 博之 (代表・事務局)
日本福音ルーテル教会	滝田 浩之
日本福音ルーテル教会	太田 一彦
日本ルーテル教団	高野 公雄
西日本福音ルーテル教会	池上 安
フェロニッパ°・ディコンリー福音教団	高橋 誠 (編集局)

聖書日課第90号 2014年2月28日発行

発行者 ルーテル「聖書日課」を読む会 代表 江藤直純
事務局 〒514-0823 三重県津市半田3424-81-204 須田博之
Tel/Fax 059-253-8789 question@seishonikka.org
郵便振替 01080-4-12181 ルーテル「聖書日課」を読む会
印刷製本 ナンデ印刷株式会社
ホームページ <http://seishonikka.org/>



《2014年度執筆者》



こんどう こういち
近藤 幸一師



いぬい かずお
乾 和雄師



いとう さあな
伊藤 早奈師



とよしま まもる
豊島 守師



したん けんいち
士反 賢一師



ぬまさき いさむ
沼崎 勇師



ふかお よしてる
深尾 吉照師



やました ひろし
山下 寛師



しみず しん
清水 臣師

《聖書日課発行委員》



須田博之師



滝田浩之師



太田一彦師



高野公雄師



池上安師



高橋誠師

